

泉ヶ内遺跡

一久礼田地区一般農道整備事業に伴う発掘調査報告書一

2000. 3

高知県南国市教育委員会



A区 完掘状況（北より）



ST1 完掘状況（東より）

序

南国市は高知県の中央部に位置し、四国山地に連なる山間部と、物部川と国分川により育まれた肥沃な香長平野により形成されています。平野部の南端は太平洋に面し、黒潮の恩恵による温暖な気候のもと、かつては二期作で、今は早場米の産地として知られています。

この恵まれた自然環境は太古より人々の繁栄を生み、その足跡は遺跡として残り、我々の祖先の暮らしぶりを今に伝えてくれます。南国市は県内で最も遺跡の集中する地域であり、急速に進展する開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっています。

このたび報告いたします泉ヶ内遺跡は久礼田地区一般農道整備事業に伴うもので、古墳時代初頭の大型竪穴住居跡からおびただしい量の土器の出土がありました。今後広く利用され、文化財保護および学術研究の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたりご指導を賜りました高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第3班長出原恵三氏、高知県教育委員会、高知県文化財団埋蔵文化財センター、また文化財への深いご理解とご協力をいただいた高知県中央東耕地事務所、地権者、地元市民の方々、そして発掘・整理作業にご尽力いただいた作業員の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

平成12年3月

南国市教育委員会

教育長 西森善郎

例　　言

1. 本書は、久礼田地区一般農道整備事業に伴う泉ヶ内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 泉ヶ内遺跡は、高知県南国市植田字泉ヶ内に所在する。
3. 本調査は、高知県中央東耕地事務所の依頼を受け、南国市教育委員会が受託し、実施した。調査対象面積は766m²であり、発掘調査面積は461m²である。調査期間は平成11年10月12日～平成11年11月9日である。
4. 発掘調査は、高知県教育委員会・高知県文化財団埋蔵文化財センターのご協力を得て、南国市教育委員会が主体となって実施した。調査体制は以下のとおりである。

調　　査　　員　　三谷民雄（南国市教育委員会　社会教育課　文化財係　主事）

調査補助員　　山中章平（　　タ　　タ　　タ　　臨時職員）

総務担当　　橋田和典（　　タ　　タ　　タ　　係長）

5. 本書の執筆・編集は、出原恵三氏（高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第3班長）のご指導のもとに三谷が行った。
6. 遺構については竪穴住居（ST）、土坑（SK）、溝（SD）、柱穴（P）で標示する。
本書の標高は海拔高であり、方位は磁北を用いた。
7. 現場作業においては、出原氏のご指導・ご教示を得た。整理作業においては、高知県文化財団埋蔵文化財センター整理作業員の山中美代子氏、矢野 雅氏などのご協力を得た。記して深く謝意を表したい。
8. 発掘調査にあたっては、地元関係者をはじめ多くの方々のご理解・ご協力を得た。また以下の現場作業員、整理作業員の皆様のご協力を得た。記して深く謝意を表したい。（敬称略）
〔現場作業員〕岡本 薫・岡本佳子・窟田泰詔・小松栄一・小松 好・島井澄子・島井周子・島井博志・高橋弘喜・武市和子・水田美津子・西川初男・橋田芳雄・浜田加代・水田宜秀・吉川 勉
〔重機オペレーター〕門田佳久・岡村知紀
〔整理作業員〕櫻尾洋子・北村厚子・土居初子
9. 当遺跡出土遺物は南国市教育委員会が保管している。遺跡の略号は99-IZである。

本文目次

第Ⅰ章	これまでの経過と調査の方法	
1.	調査に至る経過と目的	1
2.	調査の方法	1
第Ⅱ章	周辺の地理的、歴史的環境	
1.	地理的環境	2
2.	歴史的環境	2
第Ⅲ章	調査の成果	
(1)	調査の概要	8
(2)	検出遺構と遺物	
①	竪穴住居	8
②	土坑	19
③	溝	19
第Ⅳ章	まとめ	20

挿図目次

Fig.1	南国市位置図	1
Fig.2	泉ヶ内遺跡の位置と周辺の遺跡	3
Fig.3	調査区位置図	9
Fig.4	検出遺構全体図	10
Fig.5	ST1平面・セクション・出土遺物実測図（壺）	11
Fig.6	ST1出土遺物実測図（壺）	12
Fig.7	ST1出土遺物実測図（壺、甕）	14
Fig.8	ST1出土遺物実測図（甕）	15
Fig.9	ST1出土遺物実測図（甕）	16
Fig.10	ST1出土遺物実測図（鉢）	17
Fig.11	ST1出土遺物実測図（高环、甕、器台、刀子、叩石）	18
Fig.12	SK1、SD1平面・エレベーション図	19

表 目 次

表1 土器底部種別表	8
表2 高知平野の古式土師器Ⅰ期 壺穴住居比較	20
遺物観察表	21

写真図版目次

卷頭図版 1	A区完掘状況（北より）・ST1完掘状況（東より）
PL. 1	A区調査前状況（南より）・A区遺構検出状況（北より）
PL. 2	A区完掘状況（北より）・ST1上層土器出土状況（東より）
PL. 3	ST1上層土器出土状況（南より）・ST1上層土器出土状況（北より）
PL. 4	ST1セクション（東より）・ST1セクション（西より）
PL. 5	ST1セクション・ST1セクション
PL. 6	ST1床面土器出土状況（東より）・ST1完掘状況（東より）
PL. 7	ST1中央ピット（P6）・B区調査前状況（南より）
PL. 8	B区遺構検出状況（北より）・B区完掘状況（北より）
PL. 9	C区調査前状況（南より）・C区完掘状況（北より）
PL.10	D区調査前状況（南より）・D区完掘状況（南より）
PL.11	ST1出土遺物（1）
PL.12	ST1出土遺物（2）
PL.13	ST1出土遺物（3）
PL.14	ST1出土遺物（4）
PL.15	ST1出土遺物（5）
PL.16	ST1出土遺物（6）
PL.17	ST1出土遺物（7）
PL.18	ST1出土遺物（8）
PL.19	ST1出土遺物（9）

第Ⅰ章 これまでの経過と調査の方法

1. 調査に至る経過と目的

高知県南国市久礼田地区においては、平成7年度より国分川の支流である領石川の東岸に広がる農地44haを対象とした久礼田地区県営担い手育成基盤整備事業が開始され、狭隘で不整形な農地の区画整理や統合、農道・用排水路などの整備を進め、近代的な農地への転換を図ってきた。また、この地域には古墳～平安時代の周知の埋蔵文化財包蔵地である白猪田遺跡が所在する。このため南国市教育委員会による発掘調査が平成8年度に行われ、地鎮祭祀の跡や縄文輪花皿が出土したことから、土佐国衙と国分川を通じて機能的に結びついた「国府集落」として位置付けられた⁽¹⁾。

そして久礼田地区県営担い手育成基盤整備事業の付帯事業として、平成10年度より久礼田地区一般農道整備事業が開始された。この事業地内には泉ヶ内遺跡（古墳～古代）が所在するため、南国市教育委員会では文化財保護の立場から、高知県教育委員会の指導のもとに事業対象地内の遺跡の範囲・内容を確認するための試掘調査（試掘面積：104m²、平成10年9月28日～平成10年10月5日）を実施した。その結果古墳時代初頭の竪穴住居跡1棟を検出したことから、この周辺に古墳時代初頭の集落跡が広がっていることが予想された。このため、事業主体者である高知県中央東耕地事務所と南国市教育委員会は「遺跡の保護と調和のとれた開発行為の実施」について数次にわたる協議を重ね、平成11年度に高知県の委託による本調査を南国市教育委員会が実施することになった。

2. 調査の方法

発掘調査区の遺構検出面は浅く、耕作土の直下であった。そのため調査の手順としては、重機を用いて耕作土を除去した後、手作業で遺構の検出・完掘作業を行った。遺構の実測については、公共座標に基づいて基準点を設置し、平板測量にて行った。

註

（1）出原恵三・三谷民雄『白猪田遺跡』南国市教育委員会 1997年

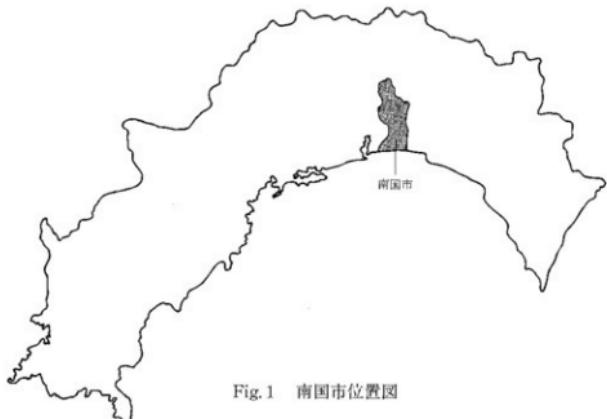


Fig. 1 南国市位置図

第Ⅱ章 周辺の地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

泉ヶ内遺跡の所在する南国市は、北緯33度34分、東経133度38分に位置し、東西約12km、南北約3km、面積125.35km²を測る。東西に長い弓状の海岸線を有する高知県のほぼ中央部にあたり、高知市の東隣、人口は約5万人を有する。主な産業は農業であり、かつては米の二期作の中心地であった。国の減反政策もあって今ではその姿を消したが、7月の中旬には刈り入れを始める早場米の產地として知られている。海岸部では施設園芸が盛んなほか、十市のヤマモモ、白木谷のタケノコなどの特産品も有名である。近年、高知空港の拡張、高速道路の延伸、阿佐線の整備、高知新港の開港など高知県の物流拠点都市としての役割のほか、高知市のベットタウンとしても発展してきている。

市域の北半分は四国山地より連なる山地で占められる。その大部分は古生代ベルム紀の上八川層と白木谷層によって形成される。市域の北境界線付近では、上八川層の標高は約800mに達するが、南下するに従って次第に高度を下げ、白木谷層では標高300~400mとなり、やがて標高150m前後の丘陵となって、ついには平野に没してゆく⁽¹⁾。

市域の南半分を占める平野部は、物部川や國分川・舟入川の堆積作用により形成された扇状地であり、高知平野の東部を占め、長岡郡と香美郡にまたがることから香長平野とも呼ばれている。香長平野は、舟入川を境に北側を古期扇状地、南側を新期扇状地に二分できる。古期扇状地は洪積世の最終氷期に形成された疊層堆積物で覆われており、長岡台地と呼ばれている。土佐國御跡や土佐國分寺跡、比江磨寺跡などは長岡台地上に立地している。一方、新期扇状地は物部川の堆積作用による沖積平野であり、香長平野の大部分を占める。ここでは自然堤防がよく発達し、その上には南四国における弥生時代の拠点的集落である田村遺跡群をはじめ、弥生時代の集落跡が多数分布している。

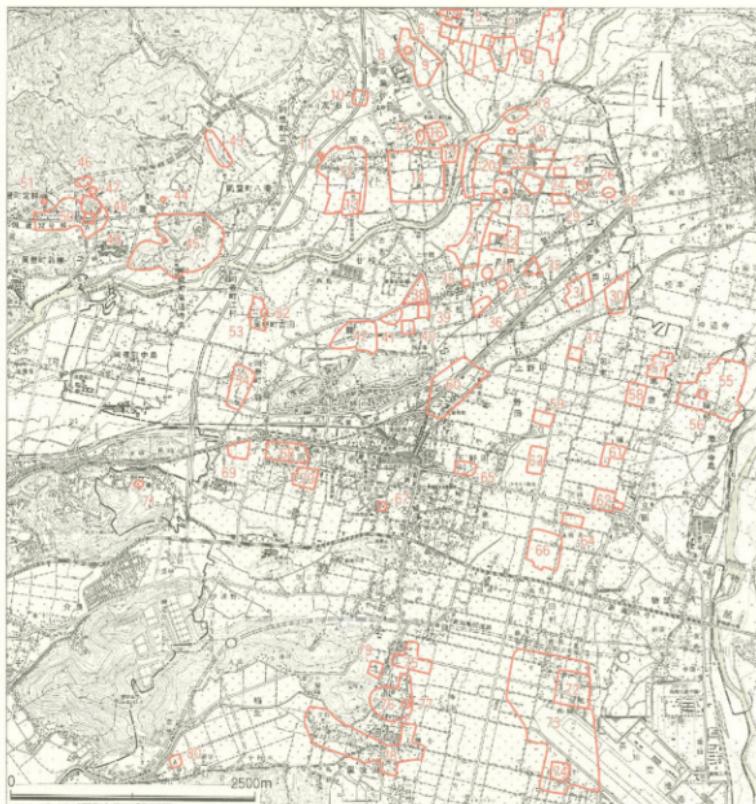
2. 歴史的環境

南国市は洪積平野と沖積平野を有し、古くから人々の生活に適した地であった。その営みの痕跡である遺跡の数は280余りにのぼる。これは高知県の遺跡総数の約1割を占め、県下で最も遺跡の分布が集中する地域である。平野部を中心に旧石器時代以降の各時代の遺跡の存在が知られており、それぞれの時代について概観する。

（1）旧石器時代

高知県の旧石器時代については、「旧石器の空白地帯」と称されるほどその様相はほとんど判明していないかった。近年の調査によって高知県西部では宿毛市池ノ上遺跡、大月町ナシケ森遺跡など徐々に遺跡数が増加しているものの、高知平野周辺では南国市との境である高知市介良の高間原古墳群1号墳の石室流入土中より出土した1点の細石器⁽²⁾が知られるのみであった。

このような状況下にあって奥谷南遺跡（南国市岡豊町）の発見は画期的なものであった。四国横断自動車道の建設に伴う発掘調査が平成6~8年にかけて行われたが、岩陰より細石刃400点、細



名 称	種別	時 代	地 名	種別	時 代	地 名	種別	時 式	地 名	種別	時 代
1 从馬内道路	散布地	古墳～平安	21 三段池	散佈地	古墳～近世	41 二ノタ走跡	散布地	弥生～平安	61 古市古墳跡	散佈地	古墳～平安
2 池上道路	城跡等	牛・住	22 池上道路	牛	小期～中後	42 上鬼瀬走跡	牛	*	62 今ノ庭道路	牛	平安
3 池上道路	散布地	古墳～平安	23 佐重道路	*	*	43 朝日町(1-2引)	古墳	古墳	63 猪俣道路	*	平安
4 ハマダ道路	*	*	24 池道道路	*	弥生～平安	44 小道走跡	*	64 高原道路	*	*	
5 中ノ川城跡	城跡等	牛・住	25 三段道路	*	*	45 開敷跡等	城跡等	中・住	65 門前道路	*	古墳～中後
6 前野道路	散布地	平安～中後	26 神山道路	*	中後～近代	46 鹿行川道路	散布地	旧石～令和	66 鮎野田道路	*	平安
7 白山道路	*	古墳～平安	27 白山道路	*	古墳～平安	47 宮山走跡	*	67 五条手守尾走跡	*	弥生	
8 諸ノ谷1-2号墳	古 墓	28 東勢～通跡	*	*	48 手取川道路	星原跡	中・住	68 若狭ノ東走跡	*	弥生～中後	
9 上河内道路	散布地	奈良～平安	29 稲羽野跡	*	(9) 小野竹城跡	城跡等	*	69 愚次集落跡	*	中・住	
10 犬田十石塚	*	古墳～中後	30 金剛道路	*	30 犬田石塚跡	散布地	绳文～近世	70 木足道跡	*	弥生～平安	
11 須分大塚古墳	古 墓	古 墓	31 斧村木道跡	*	31 金剛古墳(1-2引)	古 墓	古 墓	71 明見引(1-2引)溝	古 墓	古 墓	
12 国分寺跡	散布地	古墳～平安	32 五反塚道路	古墳～中後	32 吉田一望城跡	城跡等	牛・住	72 丹羽城跡等	中・住	城跡等	
13 土器国分寺跡	寺院跡	奈良～平安	33 來於道路	*	33 吉田走跡	散布地	古墳～中後	73 丹羽道跡等	集落跡	鷺文～近世	
14 十世国分寺跡	官吏跡	律生～中後	34 八反丸道路	古墳～平安	34 小笠原跡	*	74 千手城跡	城跡等	中・住		
15 集落跡	聚 落	古 墓	35 中原道路	*	35 萩行川道路	集落跡	*	75 池口上通道路	散布地	弥生～中後	
16 地主山城跡	城跡等	中・住	36 五反丸の通道路	古墳～元訖	36 吾町二重城跡	城跡等	中・住	76 小松道跡	*		
17 池口鬼子母神	寺院跡	白鳳～奈良	37 佐和木ノ内道路	前半土手引	37 關原走跡	散布地	古墳～平安	77 片山土器城跡	城跡等	中・住	
18 墓地跡	城跡等	中・住	38 美春人通跡	弥生～近訖	38 芦田走跡	*	78 野村田通跡	散布地	弥生～中後		
19 新御道跡	散布地	古 墓	39 通野石坐跡	弥生～中後	39 五口川内道路	弥生～平安	79 西ノア芝走跡	*	*		
20 池口上道路	散布地	*	40 大坂道路	古墳～近世	40 東海道跡	集落跡	弥生～平安	80 下山上通城跡	城跡等	中・後	

Fig. 2 泉ヶ内遺跡の位置と周辺の遺跡

石核150点、ナイフ形石器50点などが出土した。A T上層にナイフ形石器の2枚の文化層があり、旧石器時代終末の細石器文化期の遺物が集中し、層中から植物食利用を示す叩石が共伴することが明らかになった⁽³⁾。

(2) 繩文時代

繩文時代の遺跡は県西部の四万十川流域に比べて少なく、数ヶ所が確認されているにすぎない。奥谷南遺跡では草創期～中期の土器、中期末の堅果類の貯蔵穴が出土した⁽⁴⁾。奥谷南遺跡の南麓である栄工田遺跡（南国市岡豊町）からは後期初頭～晚期終末の土器と共に30点ほどの磨製石斧が出土した⁽⁵⁾。これらの地域は、丘陵部が平野部に接する地に立地しており、狩猟・採集に適した地域であった。

南の平野部では、田村遺跡群（南国市田村）の第1期調査（1980～1983年）で後期の彦崎K1式土器が⁽⁶⁾、第2期調査（1997～2000年）で鐘崎式土器が出土し⁽⁷⁾、九州との関連が窺える。

高知平野における繩文時代の資料は徐々に増加しているものの、遺構はほとんど検出されておらず、今後の資料の追加が望まれる。

(3) 弥生時代

弥生時代になると遺跡数とその規模は、急激に発展する。稻作に適した広大な沖積平野を有することから、平野部のほぼ全域に遺跡が展開している。

なかでも田村遺跡群は、その規模において群を抜いており、高知平野における拠点的母村集落と考えられる。第1期調査では前期初頭の集落跡と小区画水田跡、中期末から後期前半の集落跡が出土し、検出された竪穴住居跡は60棟、掘立柱建物跡も14棟にのぼる⁽⁸⁾。第2期調査では前期の環濠集落と前期末～中期前半の集落、中期後半～後期中葉の集落が移動を伴って変遷している様子が確認された⁽⁹⁾。検出された竪穴住居跡は453棟、掘立柱建物跡は198棟にものぼる。

田村遺跡群周辺の地域や中小河川流域では、前期後半～末葉にかけて小規模ながら遺跡が散見されるようになる。すなわち、大篠小学校校庭遺跡（南国市大篠）⁽¹⁰⁾、栄工田遺跡、岩村遺跡（南国市福船）⁽¹¹⁾、香我美町十万遺跡⁽¹²⁾、香我美町押原遺跡⁽¹³⁾などである。

中期になると遺跡数は一転して激減し、特に中期前半の遺構は高知平野ではほとんど見られなくなる。香我美町下分遠崎遺跡⁽¹⁴⁾や田村遺跡群⁽¹⁵⁾で土坑や竪穴住居が少數確認されているのみである。中期後半になると、平野部周辺の独立丘陵上に高地性集落が点在するようになる。高知市朝倉城山遺跡⁽¹⁶⁾、伊野町バーゲ森北斜面遺跡⁽¹⁷⁾、野市町本村遺跡⁽¹⁸⁾などが挙げられる。

中期後半～後期中葉にピークを迎えた田村遺跡群を拠点とする一方、周辺部の中小集落は後期中葉から終末にかけて成立し、高知平野一帯に爆発的に展開していく。すなわち、東崎遺跡（南国市東崎）、岩村遺跡、小龍遺跡（南国市岡豊町）⁽¹⁹⁾、野市町下ノ坪遺跡⁽²⁰⁾、香我美町押原遺跡）などである。

(4) 古墳時代

南国市岡豊町・久礼田・横田の平野と接する丘陵部は高知県最大の後期古墳の密集地である。なかでも小蓮古墳は県下最大の横穴式石室をもつ円墳であり、香長平野北部を中心とする有力豪族の墳墓と考えられ、22基の古墳からなる県下最大の群集墳である舟岩古墳群もこの地域に築造されて

いる。従来、高知平野における前期古墳はその存在が全く知られてなかったが、平成6年の四国横断自動車道に伴う長歟古墳群（南国市岡豊町）の調査で、同一丘陵上から4世紀前半・5世紀後半・6世紀前半の古墳（長歟2～4号墳）が確認された⁽³¹⁾。

集落は弥生時代後期終末から引き続き営まれる古墳時代初頭の集落は香長平野で数多く調査されている。古墳時代中期以降の調査例は少ないが、土佐国衙跡（南国市比江）⁽³²⁾ではこれまでの調査で30棟の竪穴住居跡が出土している。

（5）古代

古代の律令制度のもとでの土佐国を伝える遺跡として、比江廃寺跡や土佐国衙跡、土佐国分寺跡が所在しており、古代土佐の政治・文化の中心地であったことを示している。

比江廃寺跡（南国市比江）は白鳳時代の寺院跡であり、現存している塔心礎は原位置を保っていることが発掘調査により確認された⁽³³⁾。

土佐国衙跡では、昭和54年から11次にわたる確認調査が行われ、官衙を構成すると考えられる掘立柱建物群などが検出されているが、政庁などの国衙中枢施設の遺構は確認できていない⁽³⁴⁾。土佐国衙跡の北方1kmに位置する白猪田遺跡（南国市久礼田）では地鎮祭祀の跡や縄文輪花皿が出土し、「国府集落」としての性格づけがなされている⁽³⁵⁾。

土佐国分寺跡（南国市国分）では東側に寺域を区画するとみられる土壙が現存している。現状変更に伴う調査および伽藍配置確認のための調査が行われ、礎石建物跡、掘立柱建物跡などが検出されている⁽³⁶⁾。

また、野市町下ノ坪遺跡では庇を有する大型の掘立柱建物跡から四仙騎獣八稜鏡が出土し、他の掘立柱建物跡からも縄文单彩陶器が出土するなど官衙関連の遺跡として注目される⁽³⁷⁾。

（6）中世

中世になると遺跡数も増加し、分布も平野部の城館跡や山麓部の山城跡などほぼ全域にわたる。現在確認されている南国市内の中世城館跡は47ヶ所にのぼる⁽³⁸⁾。これらに伴い生活域も拡散し、現在我々が目にするような景観の基礎がほぼ形成された。

田村遺跡群では溝に囲まれた屋敷跡が31ヶ所検出されており、南北朝期に機能したもの、守護代細川氏の入部後に機能したもの、長宗我部氏の台頭期に機能したものの3時期に区分することができる⁽³⁹⁾。

田村城館跡は14～15世紀の細川氏の居館であり、城郭は3重の濠で囲まれた複合城郭である。郭内には区画溝や掘立柱建物跡が存在しており、外濠の幅は4～5m、深さ3.5mを測り、この中からは土師質土器や護符が出土している⁽⁴⁰⁾。

岩村土居城跡（南国市福船）では城を囲む2重の堀が発掘された。この堀は出土遺物から14～15世紀に機能していたと考えられる⁽⁴¹⁾。

長宗我部氏の居城であった岡豊城は詰、二ノ段、三ノ段などから礎石建物跡が検出され、史跡公園として整備されている⁽⁴²⁾。

（7）近世以降

山内氏の土佐入国による高知城築城以降、土佐の中心地は高知市域に移った。長岡台地は当時未

禁の荒地であったが、藩政初期の新田開発の際、諸役・諸税御免として入植を奨励し、御免町が生まれた。御免は今は後免と改められ、南国市の中心街となっている。近世における長岡台地の村落の様相については、陣山遺跡（南国市陣山）⁽³⁰⁾、小籠遺跡⁽³¹⁾、岩村遺跡⁽³²⁾、など近年発掘調査例は増えつつある。

近年戦争遺跡を平和学習に積極的に活用していこうという動きが全国的に見られているなか、陣山遺跡では海軍の送信所跡地が発掘され、砲弾類が多数出土した⁽³³⁾。また南国市前浜には、旧高知海軍航空隊所属の飛行機の格納庫であった掩体7基が今なおたたずんでいる。

註

- (1) 島田豊寿「地理」「南国市史 上巻」南国市教育委員会 1979年
- (2) 岡本健児「原始」「南国市史 上巻」南国市教育委員会 1979年
- (3) 松村信博『奥谷南遺跡 I』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999年
- (4) (3) に同じ
- (5) 松村信博『榮エ田遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1995年
- (6) 「高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群」第1分冊 高知県教育委員会 1986年
- (7) 「平成10年度 高知空港発掘調査 田村遺跡群 現地説明会資料」(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999年
- (8) 「高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群」第1～15分冊 高知県教育委員会 1986年
- (9) 「平成11年度 高知空港発掘調査 田村遺跡群 現地説明会資料」(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 2000年
- (10) (2) に同じ
- (11) 三谷民雄『岩村遺跡群IV』南国市教育委員会 1999年
- (12) 出原恵三・高橋啓明・吉原達生『十万遺跡発掘調査報告書』香我美町教育委員会 1988年
- (13) 出原恵三『押原遺跡』香我美町教育委員会 1993年
- (14) 高橋啓明・出原恵三『下分遠崎遺跡発掘調査報告書(1)』香我美町教育委員会 1989年
- (15) 「高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群」第4分冊 高知県教育委員会 1986年
- (16) 岡本健児『高知県史 考古編』高知県 1968年
- (17) 伊藤 強『バーガ森北斜面遺跡』伊野町教育委員会 1999年
- (18) 坂本憲昭『野市町本村遺跡調査報告書』野市町教育委員会 1993年
- (19) 出原恵三『弥生時代から中世における小籠遺跡の変遷』『小籠遺跡III』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (20) 出原恵三『ドノ坪遺跡の弥生後期土器と集落』『下ノ坪遺跡II』野市町教育委員会 1998年
- (21) 廣田佳久・池澤俊幸『長畝古墳群 高知自動車道（南国～伊野）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年

- (22)『土佐国衙跡発掘調査報告書 第1～11集』高知県教育委員会・南国市教育委員会 1980～1991年
- (23)『埋文こうち 第9号』高知県教育委員会 1996年
- (24) (22)に同じ
- (25)出原恵三・三谷民雄「白猪田遺跡」南国市教育委員会 1997年
- (26)山本哲也「土佐国分寺跡 第1～3次発掘調査概報」南国市教育委員会 1988～1991年
- (27)出原恵三・池澤俊幸・小松大洋『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会 1998年
- (28)宅間一之「高知県南国市 中世城館跡」南国市教育委員会 1985年
- (29)『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第10分冊 高知県教育委員会 1986年
- (30) (28)に同じ
- (31)三谷民雄『岩村遺跡群Ⅲ』南国市教育委員会 1998年
- (32)森田尚宏・松田直剛・岡本桂典『阿豊城跡』高知県教育委員会 1990年
- (33)出原恵三・吉成承三・浜田恵子・佐竹 寛『陣山遺跡、陣山北三区遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (34)浜田恵子「小籠遺跡、近世村落の景観復原」「小籠遺跡Ⅲ」(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1997年
- (35) (11)に同じ
- (36)出原恵三「陣山海軍送信所と爆発事故」「陣山遺跡、陣山北三区遺跡」(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

第Ⅲ章 調査の成果

(1) 調査の概要

概要 (Fig. 4)

発掘調査は平成11年10月12日～平成11年11月9日まで行った。調査地は南国市植田字泉ヶ内797・798、字中川800・820-2・821-2・824-2・825-2の水田である。南国市の久礼田地区と植田地区を区画する農道の拡幅部分（約3.5m）について調査を行った。現況の畦畔で調査区を区画し、南側より便宜上A区、B区、C区、D区とする。A区の面積は206m²、標高は22.9m前後を測る。B区の面積は109m²、標高は23.1m前後を測る。C区の面積は70m²、標高は23.5m前後を測る。D区の面積は76m²、標高は24.0m前後を測る。

遺構検出面は各区とも浅く、耕作土直下の褐色粘質土を掘り込んで形成している。検出された主な遺構はA区の竪穴住居1棟・土坑1基、ピット25個、B区の溝1条、ピット22個であり、C・D区では全く検出されなかった。

(2) 検出遺構と遺物

① 竪穴住居

ST1 (Fig. 5)

A区中央部に位置し、円形で直径7.5m前後、検出面より床面までの深さ32～38cmを測る竪穴住居跡である。埋土は褐色（7.5YR4/1）粘質土の単純一層である。

床面は地山削り出しによるベット状遺構を有し、幅35～90cm、高床部の高さは6.7cm前後を測る。ベッド状遺構は全周するが、北東部でその幅が狭くなる。壁溝は確認することができなかつた。中央ピット（P6）は住居跡の中央部やや南よりで確認された。東西方向に主軸をもち、長軸130cm、短軸84cmの楕円形を呈し、深さは22cmを測る。中央ピットの埋土は褐色（5YR5/1）粘質土である。中央ピットに隣接して焼土の広がりが確認された。中央ピットの南東部の床面には約30cmの川原石が置かれていた。床面には10個の小ピットが掘られているが、主柱穴を特定することは難しい。その多くから古式土師器の細片が出土している。

出土遺物は古式土師器と叩石、鉄製刀子である。ST1の埋土は褐色粘質土の単純一層のため、遺物は任意に上・中・下層と床面の4群に分けて取り上げた。図示し得た遺物のうち上層からの出土は73点、中層からは47点、下層からは23点、床面からは（18・36・107）の3点である。なお、中央ピット（P6）からの出土は2点（117・123）、P7からの出土は1点（94）を図示できた。

ST1出土の土器を図示し得なかつたものも含めて器種別の組成比を口縁部の点数で示すと、壺68点（18.9%）、甕167点（46.4%）、鉢83点（23.1%）、高坏38点（10.6%）、瓶2点（0.5%）、器台2点（0.5%）である。底部の形態の明確なものは平底161点（62.4%）、丸底95点（36.8%）、尖底2点（0.8%）である。

器種	平底	丸底	尖底	計
壺	7	5	0	12
甕	22	10	2	34
鉢	23	9	0	32
器種不明	109	71	0	180
合計	161(62.4%)	95(36.8%)	2(0.8%)	258(100%)

表1 土器底部種別表

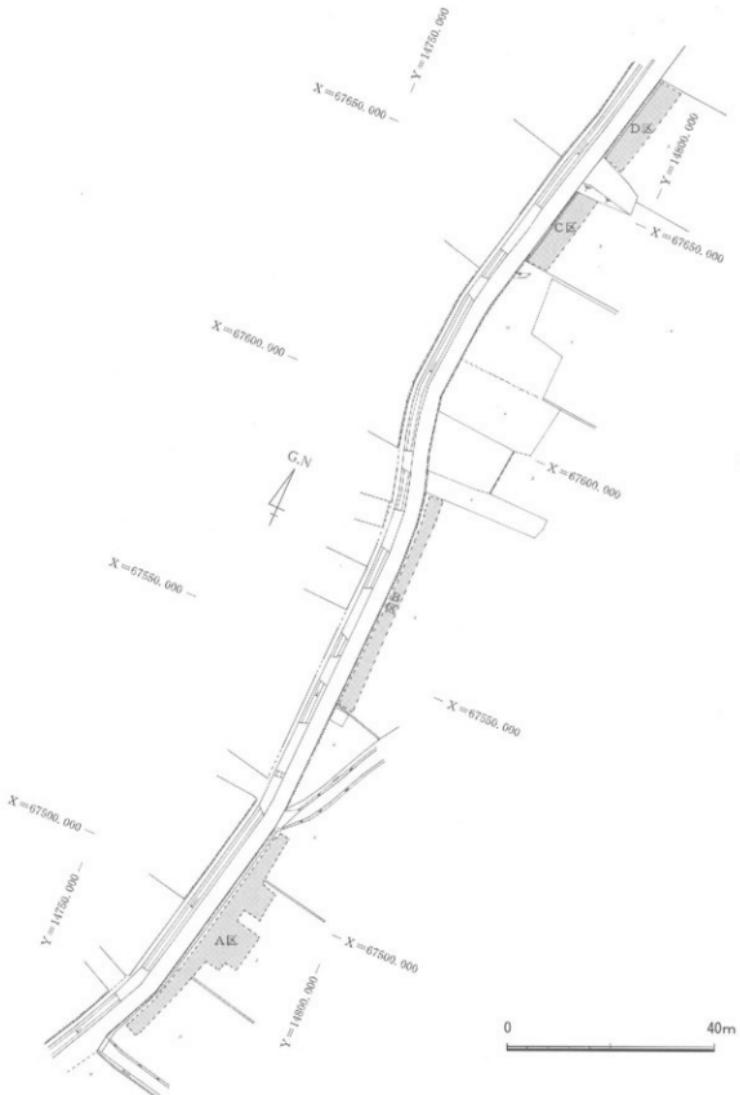


Fig. 3 調査区位置図

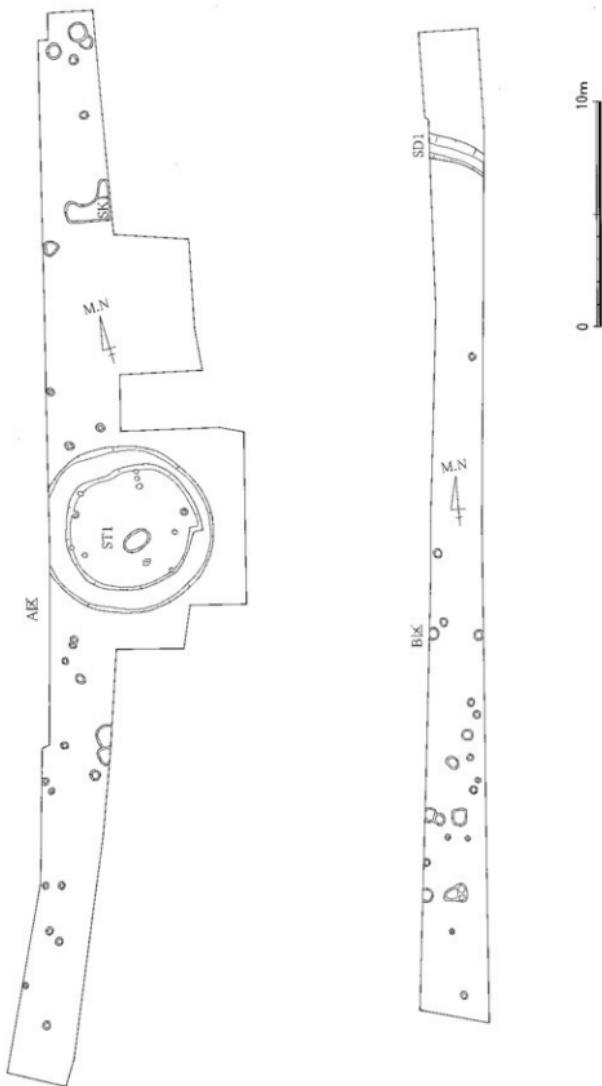


Fig. 4 检出遗物全图

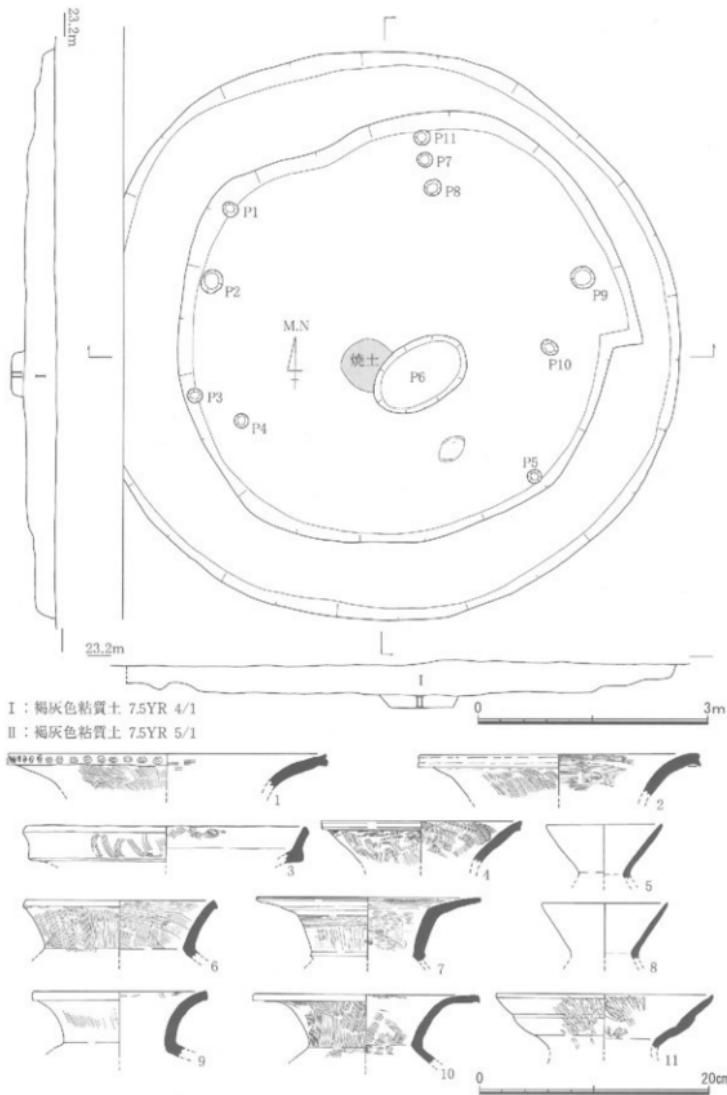


Fig. 5 ST1平面・セクション・出土遺物実測図 (縦)

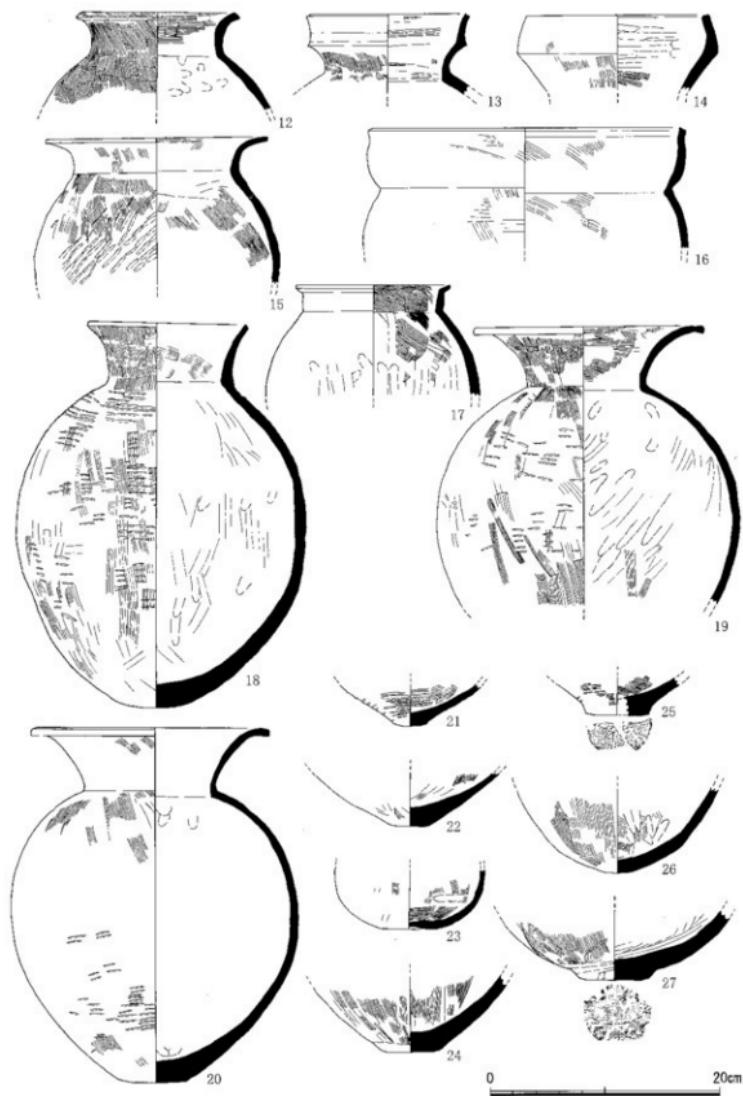


Fig. 6 ST1出土遺物実測図（壺）

壺は、伝統的な広口壺（1・2・4・7・9・10・12・15・18～20）や複合口縁壺（14・16）、口縁部が外反する二重口縁壺（3・13）、斜め上方へ直ぐ上がる口縁部を有する小型丸底壺（5・8・23）などである。（1・3）は口縁部外面を管状工具による刻目や櫛描紋で加飾している。外面は叩き+ハケ調整、内面はハケ及びナデ調整で仕上げられるものが多いが、（11）は口縁部内・外面にヘラ磨きを施す。

壺は形態・技法ともに弥生後期終末のものを踏襲し、極めて漸進的な変化を遂げている。口縁部は長胴部より「く」の字状に大きく外反して立ち上がる。胴部外面にはハケ調整を施すも、叩き目は明確に残る。古式土師器Ⅰ期の特徴に吉備・庄内・東阿波などの地域からの搬入品が多く伴出することが挙げられるが、今次調査でも庄内式の範疇で捉えられる壺（32）が出土している。これは褐灰色の胎土で、内面ヘラ削りを施している。

鉢は少数であるが皿状を呈するもの（90・91）とそれ以外の椀状を呈するものに分けられる。口縁部は内湾しながら立ち上がるものが多いが、（124～126）のように僅かに外反するものもある。外面の叩き目をナデやハケで消すものが多いが、（126）は丁寧なヘラ磨きを施す。

高杯は坏部が椀状を呈し、脚部がハの字状に聞くタイプ（133～135）と稜をもち立ち上がる坏部に柱状部から屈曲して聞く裾部をもつタイプ（127～132・136）がある。後者は裾部に4方に円孔を穿つものが多い。

瓶は（148・149）の2点と出土例が僅少であるが、両方とも底部に焼成前に1孔を穿つ。

ST1は古墳時代初頭の古式土師器Ⅰ期に属する。



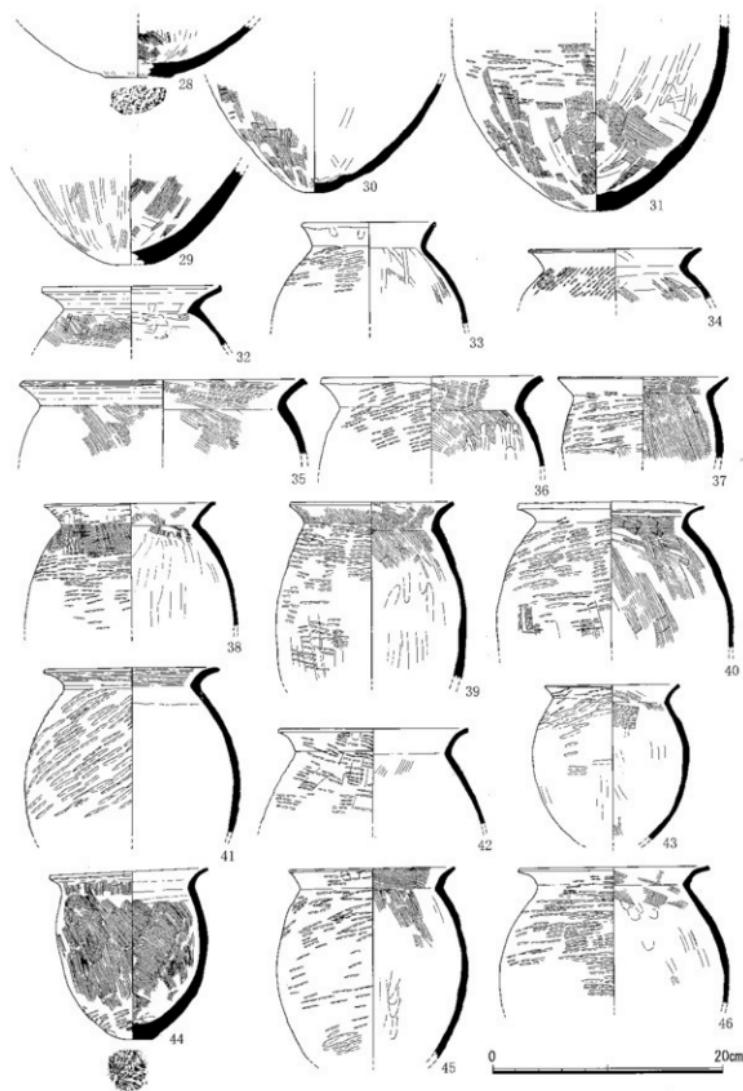


Fig. 7 ST1出土遺物実測図（壺、甌）

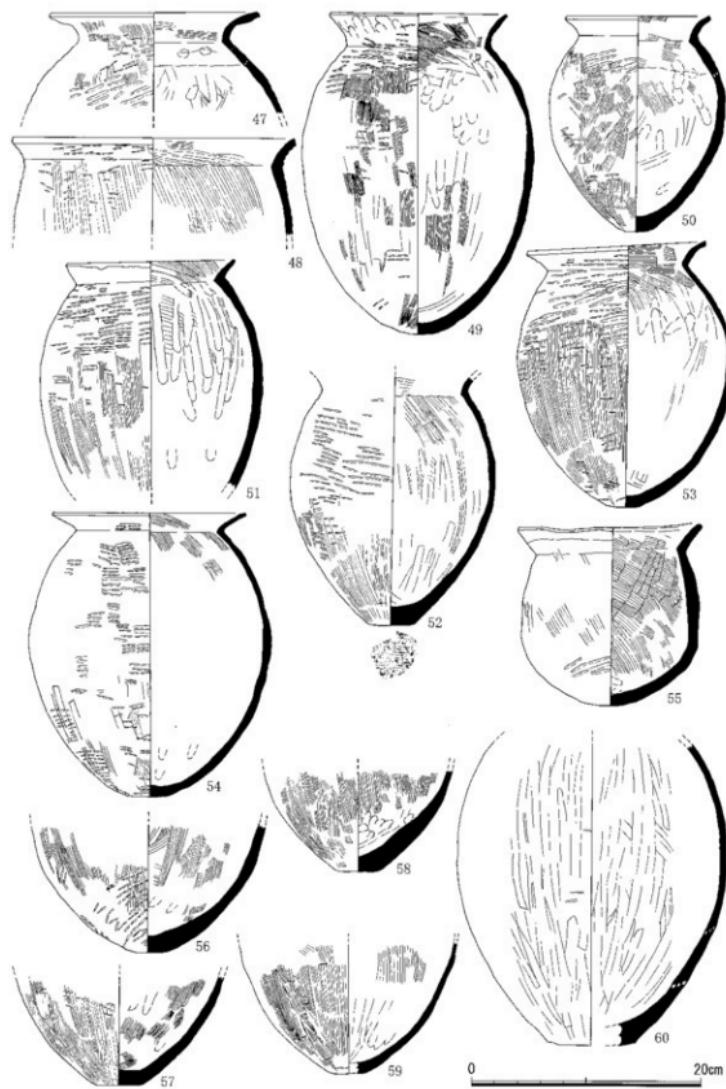


Fig. 8 ST1出土遺物実測図(甕)

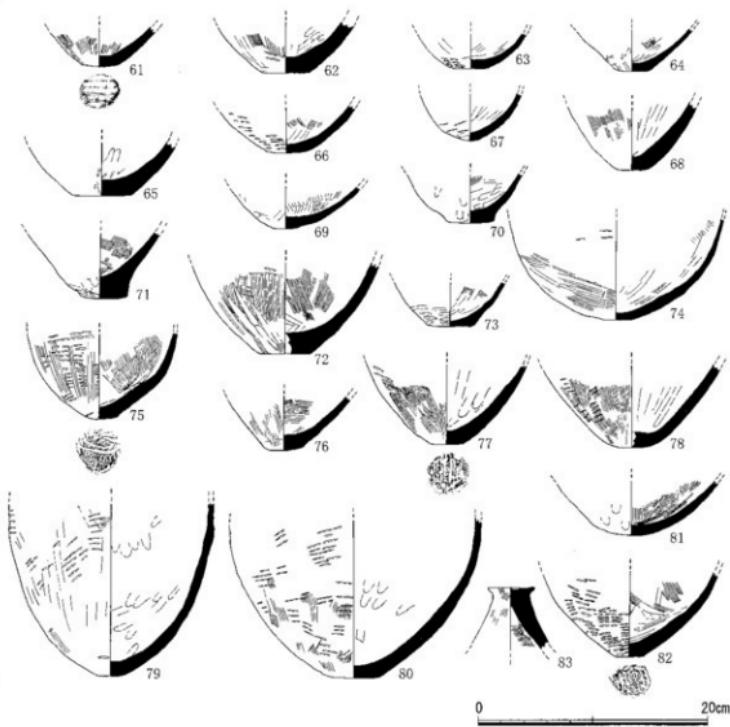


Fig. 9 ST1出土遺物実測図 (甕)

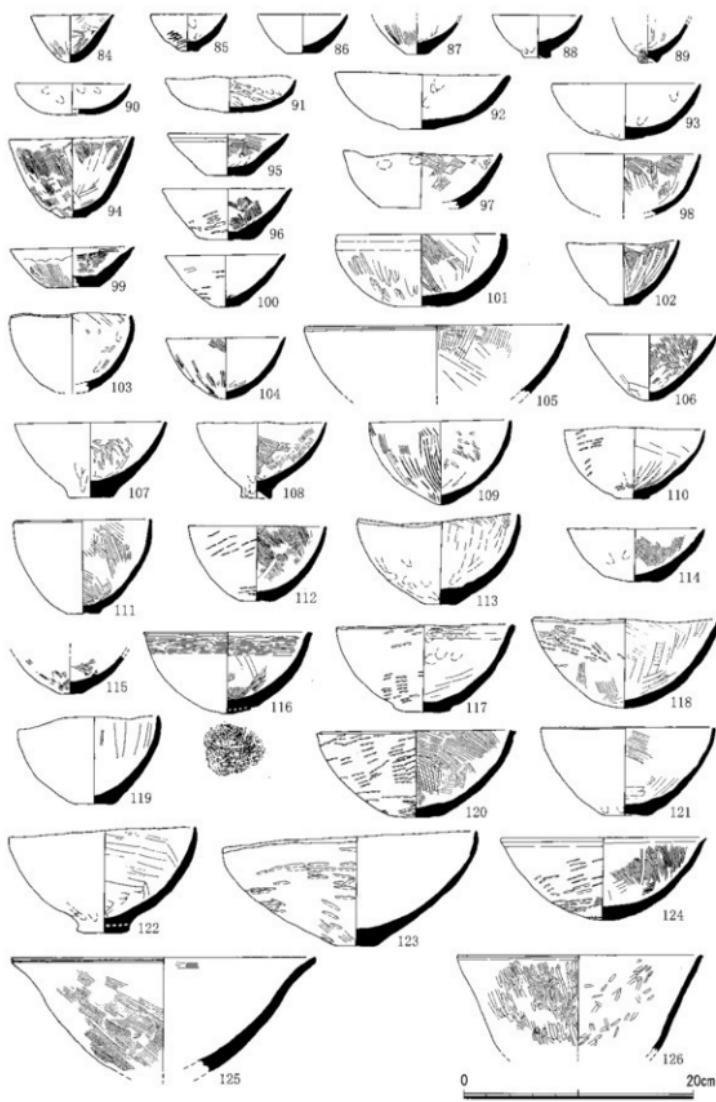


Fig.10 ST1出土遺物実測図（鉢）

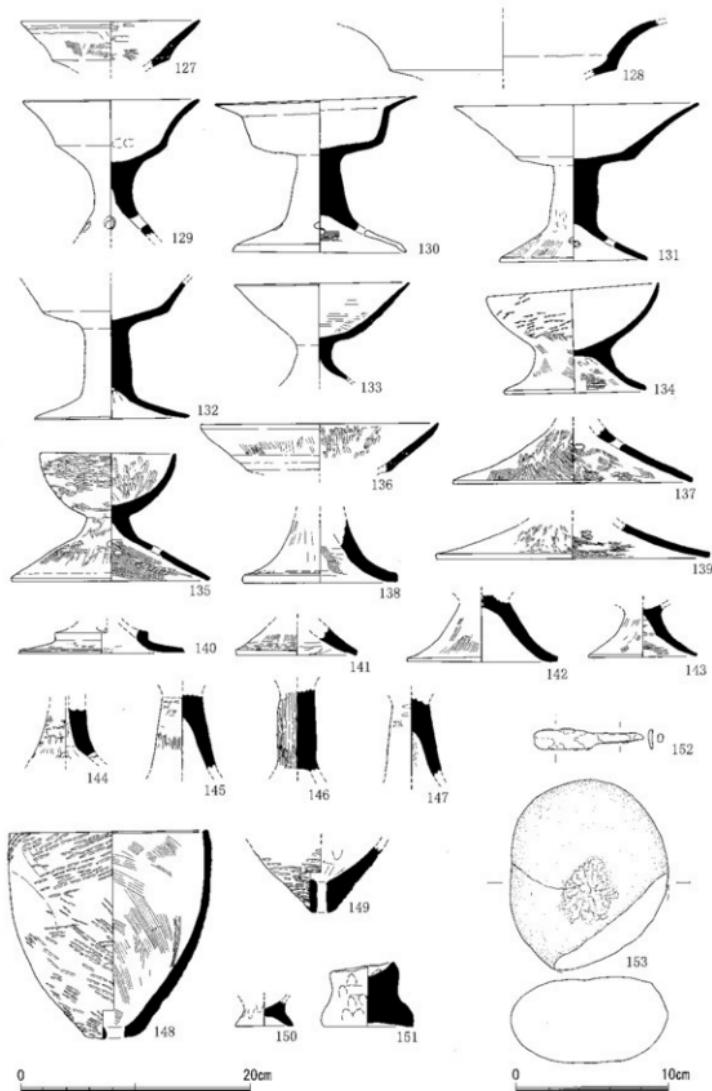


Fig.11 ST1出土遺物実測図（高壙、瓶、器台、刀子、叩石）

② 土坑

SK 1 (Fig.)

A区の北部で検出された不整形な土坑である。南北方向に170cm、東西方向に190cm、深さは34cmを測る。埋土は褐灰色（7.5YR4/1）粘質土の単純一層である。遺物は古式土師器の壺・甕の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

③ 溝

SD 1

B区の北部で検出された東西方向の溝である。検出できた範囲は幅106cm、長さ230cm、深さ33cmを測る。断面形は逆台形で、埋土は灰褐色粘質土（7.5YR5/2）の単純一層である。遺物は土師器・須恵器の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

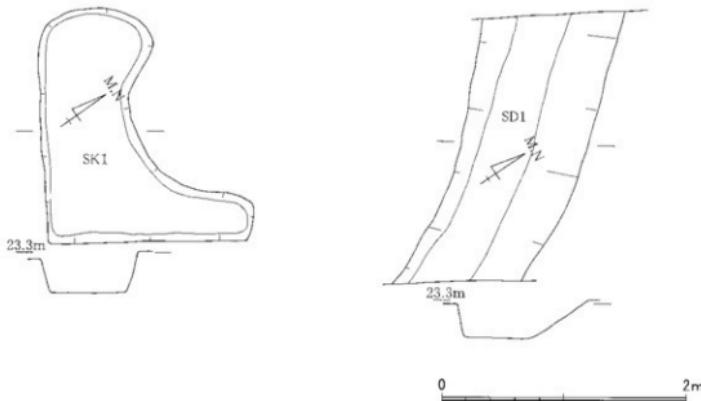


Fig.12 SK1、SD1平面・エレベーション図

第Ⅳ章　まとめ

今回の調査では、古墳時代初頭の古式土師器I期に属する竪穴住居跡1棟が確認された。高知平野における当該期の竪穴住居は方形または隅丸方形で占められ、円形住居は前代の竪穴住居を再利用し、建て替えと拡張を行った西分増井遺跡のST7₍₁₎が例外的に知られるのみであった。泉ヶ内遺跡のST1は径7.5m、床面積45.3m²と大型の円形住居、ドーナツ状に巡らされた地山削り出しによるベッド状構造、床面中央よりやや南側に設けられた中央ピットなど弥生後期終末の竪穴住居の特徴を示している。在土器の後期後半から古式土師器I期への移行は、丸底の増加や鉢の形態変化などを指標とすることができるものの、全体としては極めて漸進的な変化であり、技法・形態上の顕著な画期を求めるることはできない⁽²⁾。同様に、弥生時代の終焉と同時に円形住居が消滅したのではなく、数は激減するものの古式土師器I期の段階まで存続したものと考えられる。すなわち、前期古墳の欠如という外的要因の乏しさにより、高知平野の弥生終末期から古墳時代初頭の社会の様相は、極めて緩やかに移行していったものと思われる。

註

- (1) 出原恵三『西分増井遺跡群発掘調査報告書』春野町教育委員会 1990年
- (2) 出原恵三「小籠遺跡出土の弥生後期上器及び古式土師器」『小籠遺跡II』(財)高知県文化財団理蔵文化財センター 1996年

No.	遺跡名	竪穴住居名	平面形態	大きさ(m)	床面積(m ²)	主柱穴	ベッド
1	泉ヶ内遺跡	ST1	円形	径7.5	45.3	—	○
2	ひびのき遺跡	A1	長方形	6×4.5~5.8	—	—	○
3	▲	A2	—	—	—	—	×
4	五軒屋敷遺跡	ST2	方形	6.8	49	4	×
5	岩村遺跡	II区ST1	▲	5.5×5	27.5	—	○
6	▲	VI区ST9	▲	—	—	—	×
7	▲	VI区ST10	▲	4.9×5.3	26	—	○
8	小籠遺跡	ST8	▲	4.9×4.4	21.6	4	○
9	▲	ST13	▲	4.9×5.2	25.5	4	○
10	▲	ST14	隅丸方形	5.2	25	—	×
11	▲	ST16	隅丸方形	6.3	34	5	○
12	▲	ST20	方形	5	25	—	○
13	東崎遺跡	ST1	隅丸方形	4.5×4.1	16	4	○
14	▲	ST4	長方形	5.6×4.7	26.3	—	×
15	▲	ST5	方形	6.7×6.4	43	—	×
16	西分増井遺跡	ST2	▲	6	36	—	○
17	▲	ST5	隅丸方形	5.4	25	—	○(貼り付け)
18	▲	ST7	円形	径8	50.2	—	○
19	▲	ST8	方形	5.3	28	—	×
20	▲	ST10	隅丸方形	4.8	23	—	○(貼り付け)
21	▲	ST11	▲	2.8	8	—	×
22	▲	ST12	方形	4.2	17	—	×
23	▲	ST14	隅丸方形	4.2	17	—	×
24	▲	ST17	方形	—	—	—	×

表2 高知平野の古式土師器I期 竪穴住居比較

遺物観察表 1

Fig No	番号	出土 地点	器種	法量 (cm)			色調		特 徴	備 考	
				口径	器高	腹径	底径	内面	外面		
5	1	ST1 上層	壺	27.6	(3.2)			にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	チャートの縁・粗粒砂を含む。内面ナデ、外面ハケ。口部に管状工具による刻目を施す。	
6	2	ST1 中層	壺	24.4	(3.7)			褐色 5YR5/6	褐色 5YR6/6	チャートの粗粒砂を含む。口部を下方へ摘み出す。口縁部強いナデ。外面糊ハケ。内面糊ハケ。	
6	3	ST1 中層	壺	24.2	(3.3)			褐色 7.5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	チャート・石英の粗粒砂、小難を含む。二重口縁壺。口縁部外面に横指紋。内面ハケ。	
6	4	ST1 中層	壺	17.4	(3.7)			褐色 5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	チャートの粗粒砂を含む。口部に粘土帶を貼付し、強いナデ。外面タタキ+ハケ。内面ハケ+ナラ状工具で沈線を施す。	
6	5	ST1 中層	壺	10.0	(4.6)			にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	チャート・赤色風化櫻の縁・粗粒砂を含む。器底の変化が激しく、内・外面の調整不明。	
6	6	ST1 中層	壺	16.2	(5.0)			褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	チャートの粗粒砂を含む。外面粗い縦方向のハケ。内面粗い横方向のハケ。	
6	7	ST1 下層	壺	19.3	(5.5)			褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	チャートの細粒砂をわずかに含む。口縁部内・外面強なナデ・ハケ。頭部内外面ミガキ。口縁部はラッパ状に大きく外反する。	
6	8	ST1 上層	壺	11.0	(4.8)			褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	チャートの縁・粗粒砂を含む。内・外面の調整不明。	
6	9	ST1 中層	壺	15.0	(5.8)			にぶい褐色 5YR7/4	褐色 2.5YR7/6	チャートの粗粒砂を多く含む。頭部外面にハケ。口縁部内面ミガキ。	
6	10	ST1 上層	壺	19.6	(6.0)			褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	チャート・赤色風化櫻の粗粒砂を含む。内・外面ハケ。	
6	11	ST1 上層	壺	18.8	(4.7)			褐色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	希遇された胎土。内・外丁寧なミガキ。口縁部は外反して立ち上がる。	
6	12	ST1 中層	壺	14.2	(8.5)			にぶい黄褐色 10YR6/4	明赤褐色 5YR5/6	チャート・石英・赤色風化櫻の粗粒砂を含む。外面強い模ハケ。口縁部横ハケ。上脚部内面指痕压痕記。	
6	13	ST1 上層	壺	13.4	(7.0)			にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	チャート・石英・赤色風化櫻の粗粒砂を含む。二重口縁壺。口縁部外・外面ナデ・頭部外面横ハケ、内面横ハケ。二重口縁壺。	
6	14	ST1 中層	壺	16.0	(6.6)			にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	チャート・石英の縁・粗粒砂を含む。外面ナデ、横ハケ。内面横方向の強い指ナデ、右下がりのハケ。	
6	15	ST1 上層	壺	19.2	(12.7)			にぶい褐色 5YR7/4	にぶい褐色 5YR7/4	チャート・石英の粗粒砂を含む。外面タタキ+ハケ。内面ハケ。	
6	16	ST1 中層	壺	26.6	(10.5)			明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	チャート・石英の粗粒砂を含む。内・外面ハケ。	
6	17	ST1 上層	壺	13.4	(9.6)			褐色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	チャートの粗粒砂、小難を含む。口縁部は直上に立ち上がった後、外反する。外断指ナデ。口縁部+上脚部内面ハケ、中脚部+指ナデ。	
6	18	ST1 床	壺	13.6	33.6	25.2		にぶい褐色 7.5YR7/3	にぶい褐色 7.5YR6/4	チャート・赤色風化櫻の粗粒砂を含む。外面タタキハケをナデ消す。内面ハケ、指ナデ、指痕压痕あり。外面に黒斑あり。丸底。	
6	19	ST1 下層	壺	20.0	(24.5)	26.5		にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	チャートの粗粒砂を含む。口縁部・裏部内・外断指ナデ。口縁部はラッパ状に大きく外反する。	
6	20	ST1 上層	壺	20.7	31.0	25.0	5.7	褐色 7.5YR4/4	にぶい褐色 7.5YR4/4	チャートの縁・粗粒砂を含む。下脚部外面タタキ+ナデ。上脚部・口縁部の外断ハケ。内面指痕压痕あり。外断に大きな黒斑あり。口縁部はラッパ状に大きく外反する。平底。	
6	21	ST1 中層	壺		(3.7)		3.2	褐色 5YR7/6	褐色 5YR7/6	チャートの縁・粗粒砂を含む。外面タタキ、内面ハケ。外底部に黒斑あり。平底。	
6	22	ST1 下層	壺		(4.7)		3.2	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	チャートの縁・粗粒砂を含む。内・外面ハケ。外面に黒斑あり。平底。	
6	23	ST1 上層	壺		(5.2)		4.8	褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	チャートの縁・粗粒砂を含む。外面ハケをナデ消す。内面ハケ+指ナデ。	

遺物観察表2

Fig.番号	出土地点	器種	法量(cm)			色調		特徴	備考
			口径	器高	側径	底径	内面		
6 24	ST1 下層	壺		(6.6)		5.0	黄灰色 2SY4/1	褐色 7SYR6/6	チャート・石英・赤色風化層の細・粗粒砂を含む。 内・外面ハケ。外面に黒斑あり。平底。
6 25	ST1 中層	壺		(3.4)		5.6	に赤い褐色 7SYR7/4	褐色 7SYR6/6	チャートの粗粒砂を少量含む。外面タキをナゲ出す。 内面ハケ。平底。
6 26	ST1 上層	壺		(7.4)		3.0	黒色 10YR2/1	褐色 5YR6/6	チャート・赤色風化層の粗粒砂、小穢を含む。 外面ハケ。内面ハケ+指ナデ。丸底。
6 27	ST1 下層	壺		(6.1)		6.0	に赤い褐色 7SYR6/4	に赤い褐色 7SYR6/4	チャート・石英・赤色風化層の細・粗粒砂を含む。 外側ハケ、底部付近ナデ。外底部ハケ。内面ナデ。平底。
7 28	ST1 上層	壺		(4.5)		6.2	に赤い黄色 10YR7/4	褐色 7SYR6/6	チャート・石英の粗粒砂を含む。内面ハケ、外面タキ。 外面に黒斑あり。平底。
7 29	ST1 上層	壺		(8.4)			に赤い褐色 5YR6/4	に赤い褐色 5YR6/4	チャート・石英の粗粒砂、小穢を含む。 内・外面ハケ。丸底。
7 30	ST1 上層	壺		(9.5)		3.9	に赤い黄色 2SY6/3	に赤い黄色 2SY6/3	チャート・石英・赤色風化層の粗粒砂、小穢を含む。 外面部ハケ。内面ナデ。丸底。
7 31	ST1 中層	壺		(16.1)			に赤い褐色 7SYR6/4	に赤い褐色 7SYR6/3	チャートの細・粗粒砂を含む。外側タキ+ハケ。 内面ハケ+指ナデ。外底部に黒斑あり。外底部はひける。丸底。
7 32	ST1 中層	壺	15.4	(5.3)			褐灰色 7SYR4/1	褐灰色 7SYR4/1	チャート・雲母の粗粒砂を少量含む。口唇部を上方へ挿み上げる。外面ハケ。内面右二左のハラ割り。
7 33	ST1 上層	壺	11.6	(8.9)			に赤い黄色 2SY6/4	に赤い黄色 7SYR6/3	チャートの粗粒砂、小穢を含む。口縁部外端指痕あり。上部面部タキ。内面ハケ+ナデ。
7 34	ST1 上層	壺	15.2	(4.6)			に赤い褐色 7SYR7/3	に赤い褐色 7SYR7/3	チャートの粗粒砂を含む。外面タキ、内面ハケ。 口縁部は内・外側ハケ。
7 35	ST1 中層	壺	24.2	(6.7)			褐色 7SYR7/6	褐色 7SYR7/6	チャートの粗粒砂を含む。体部外側ハケ。内面ハケ。
7 36	ST1 床	壺	19.0	(8.0)			に赤い褐色 7SYR6/3	に赤い褐色 7SYR5/3	チャートの粗粒砂を含む。外面タキ。内面ハケ+指ナデ。
7 37	ST1 中層	壺	14.6	(7.1)			褐灰色 7SYR5/1	褐灰色 7SYR5/1	チャートの粗粒砂を含む。外面タキ+ハケ。内面ハケ。
7 38	ST1 上層	壺	14.8	(10.9)			に赤い褐色 7SYR6/4	に赤い褐色 7SYR6/4	チャートの粗粒砂を含む。口縁部外側タキ、指痕あり。上部外側タキ+ハケ。中底部外側タキ。口縁部内面ハケ。底部内面板状突起による腹方向のナデ。外腹凹出。
7 39	ST1 下層	壺	14.1	(15.4)	16.6		褐色 7SYR6/6	褐色 7SYR6/6	チャートの粗粒砂を少量含む。口縁部内・外側ハケ。外側タキ+ナデ。内面ハケ、指ナデ。内面凹出。
7 40	ST1 中層	壺	16.0	(12.8)	20.5		淡黃褐色 7SYR8/4	淡黃褐色 7SYR8/4	チャートの粗粒砂を含む。外面タキ+ハケ。内面ハケ。
7 41	ST1 上層	壺	15.2	(14.6)			黃灰色 2SY5/1	褐色 2SYR6/6	石英の細・粗粒砂を少量含む。口縁部内・外側ハケ。腹部外側タキ。外側少々深窪する。
7 42	ST1 下層	壺	16.4	(8.3)			に赤い褐色 5YR4/3	に赤い褐色 10YR4/3	チャートの小穢・粗粒砂を含む。外面タキ+ナデ。口縁部外側指痕痕あり。
7 43	ST1 上層	壺	11.6	(13.5)	13.6		に赤い褐色 7SYR7/3	に赤い褐色 7SYR7/3	チャートの粗粒砂を含む。外面タキ+ナデ。内面ハケ。腹部外側被熱変色し、焦げる。
7 44	ST1 上層	壺	13.7	14.7	13.2	3.5	に赤い褐色 10YR6/3	に赤い褐色 10YR6/3	チャートの粗粒砂を含む。腹部外側タキ。底部内面強烈指ナデ。外側2ヶ所に黒斑あり。下部外側被熱変色する。半底。
7 45	ST1 上層	壺	14.4	(15.9)	16.6		に赤い褐色 7SYR7/3	に赤い褐色 7SYR7/3	チャートの粗粒砂を含む。外面タキ+ナデ。指痕痕あり。内面ハケ、指ナデ。
7 46	ST1 上層	壺	16.3	(10.7)	20.0		に赤い褐色 7SYR7/3	に赤い褐色 7SYR7/3	に赤い褐色 7SYR7/3 内面タキ+ナデ。内面ハケ、指痕痕あり。外側に黒斑あり。

遺物観察表3

Fig 順次 No.	地番 番号	出上 地点	器種	法量(cm)			色調		特 徴	備 考	
				口径	高さ	側径	底径	内面			
8	47	ST1 中層	甕	18.0	(8.8)			に赤い橙色 7.5YR6/4	に赤い橙色 7.5YR6/4	チャートの粗粒砂を含む。外面タタキ+ハケ。内面 ハケ、指頭圧痕あり。	
9	48	ST1 下層	甕	24.4	(8.3)			橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	チャートの細・粗粒砂を含む。外面タタキ+粗い縦 口縁部内面粗い横ハケ。側部内面直い右下が りのハケ。	
10	49	ST1 上層	甕	15.3	27.5	20.2		橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	チャートの細・粗粒砂を含む。口縁部外面指ナデ。 外面タタキ+ハケ。口縁部内面ハケ。内面ハケ+指 ナデ。外面焼ける。内面に黒斑あり。丸底。	
11	50	ST1 中層	甕	12.4	18.7	15.2		灰褐色 7.5YR6/2	灰褐色 7.5YR6/2	チャートの粗粒砂を含む。外面タタキ+ハケ。内面 ハケ、指ナデ。外部部被熱赤変する。尖底。	
12	51	ST1 上層	甕	14.5	(19.9)			に赤い褐色 2.5YR6/4	に赤い黃褐色 10YR6/3	チャートの細・粗粒砂を含む。口縁部外面薄い粘土 質を貼付する。外面タタキ+ハケ。内面直いハケ+ 縦方向の指ナデ。外面焼ける。	
13	52	ST1 中層	甕		(21.8)	17.9	4.1	明赤褐色 5YR5/6	に赤い橙色 7.5YR7/4	チャート・石英の細・粗粒砂を含む。上端部外面タ タキ+ハケ。内面ハケ+ナデ。外底部に黒斑あり。 外而被熱赤変する。平底。	
14	53	ST1 中層	甕	15.5	22.8	18.7		に赤い橙色 7.5YR6/4	に赤い橙色 7.5YR6/4	チャートの細・粗粒砂を含む。口縁部は「く」の字 状に大きく述べて立ち上がる。口縁+頭部外側はタタキ+ハ ケ。口縁部内面ハケ。頭部直下は粗いハケを保有す る。上端部内面焼け方向の指ナデ。外面焼ける。丸底。	
15	54	ST1 上層	甕	16.7	24.7	21.2		に赤い褐色 5YR5/4	に赤い褐色 7.5YR5/3	チャートの粗粒砂を含む。口縁部は「く」の字状に 大きく述べて立ち上がる。外面は口縁部から底部 にかけてタタキ。下部脇はタタキ+ハケ。口縁部内 面ハケ。内面底部に指頭圧痕あり。丸底。	
16	55	ST1 上層	甕	15.7	15.5	15.3		橙色 2.5YR6/6	に赤い褐色 2.5YR5/4	チャート・石英・赤色風化繊の粗粒砂。小窓を含む。 外面タタキ+ハケ+ナデ。内面直いハケ。内面 焼ける。丸底。	
17	56	ST1 中層	甕		(11.2)		3.6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	チャート赤色風化繊の細・粗粒砂を含む。外面タタ キ+ハケ。内面ハケ、指頭圧痕あり。外面に黒斑あり。 わざかに平底。	
18	57	ST1 上層	甕		(9.5)		3.5	褐灰色 7.5YR4/1	灰褐色 7.5YR5/2	チャートの細・粗粒砂を含む。外面タタキ+ハケ。 内面ハケ+指ナデ。平底。	
19	58	ST1 下層	甕		(8.7)		3.6	橙色 7.5YR6/6	に赤い褐色 7.5YR6/4	チャート・石英の細・粗粒砂を少量含む。内底部指 ナデ。内・外面ハケ。外而焼ける。平底。	
20	59	ST1 上層	甕		(11.3)		3.2	に赤い褐色 7.5YR5/4	に赤い褐色 7.5YR5/4	チャートの細・粗粒砂を含む。外面タタキ+ハケ。 内面指ナデ、ハケ。外而被熱赤変する。平底。	
21	60	ST1 下層	甕		(26.5)	23.5	5.7	暗赤褐色 2.5YR5/2	暗褐色 7.5YR7/6	チャート・石英の細・粗粒砂を含む。外面タタキを 強めナデで削す。内面ハケ+ナデ。平底。	
22	61	ST1 上層	甕		(3.4)		3.0	に赤い褐色 10YR6/3	黄褐色 2.5Y5/3	チャート・石英の細・粗粒砂を含む。内・外而ハケ。 外而焼ける。平底。	
23	62	ST1 上層	甕		(4.5)		4.0	灰褐色 7.5YR6/2	に赤い褐色 7.5YR6/4	チャート・石英・赤色風化繊の粗粒砂。小窓を含む。 外面タタキ+ハケ。内面指ナデ。平底。	
24	63	ST1 中層	甕		(3.1)		3.3	に赤い褐色 5YR7/4	に赤い褐色 5YR7/4	チャート・石英の細・粗粒砂を含む。外面タタキ+ ナデ。内面ナデ。平底。	
25	64	ST1 下層	甕		(3.5)		3.1	に赤い褐色 7.5YR6/4	に赤い褐色 7.5YR6/4	チャート・赤色風化繊の粗粒砂を少量含む。外面ミ カキ。内面ハケ、丁寧なナデ。平底。	
26	65	ST1 下層	甕		(4.7)		5.0	に赤い褐色 7.5YR7/4	明赤褐色 5YR5/6	赤色風化繊・石英の細・粗粒砂を含む。外面部分的 にミカキ。内面ナデ。平底。	
27	66	ST1 上層	甕		(4.0)		3.8	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	チャート・石英の細・粗粒砂を含む。外面タタキ。 内面ハケ。平底。	
28	67	ST1 中層	甕		(4.1)			に赤い褐色 10YR6/4	に赤い褐色 7.5YR7/4	チャート・赤色風化繊の細・粗粒砂を含む。外面タ タキをナデ削す。内面ナデ。尖底。	
29	68	ST1 上層	甕		(5.5)		3.0	黑褐色 2.5Y3/1	に赤い褐色 7.5YR7/4	チャート・石英の細・粗粒砂を含む。外而ハケ。内 面ナデ。平底。	

遺物観察表4

Fig. No.	探 査 番 号	出 土 地 点	器種	法量(cm)			色調		特 徴	備 考
				口径	器高	胴径	内面	外面		
9	69	ST1 上層	壺		(3.7)		明赤褐色 5YR5/6	に赤い赤褐色 5YR5/4	チャートの縁・粗粒砂を含む。内面ハケ。外画ナデ。丸底。	
+	70	ST1 上層	壺		(4.2)	4.1	褐色 7.5YR6/6	に赤い黃褐色 7.5YR6/4	チャート・石英・赤色風化塵の縁・粗粒砂を含む。外画に指痕压痕あり。内面ハケ。平底。	
+	71	ST1 上層	壺		(5.7)	4.6	に赤い黃褐色 2.5YR6/4	に赤い褐色 7.5YR6/4	チャート・石英の縁・粗粒砂を含む。外画に指痕压痕あり。内面ハケ。平底。	
+	72	ST1 中層	壺		(8.0)	4.4	に赤い褐色 7.5YR7/4	に赤い褐色 7.5YR7/4	チャート・赤色風化塵の縁・粗粒砂を含む。外画タキナ+ハケ。部分的に強くナデ。内面ハケ。外画に大きな黒斑あり。平底。	
+	73	ST1 中層	壺		(3.9)	4.0	に赤い黃褐色 10YR5/4	に赤い黃褐色 10YR5/4	チャート・石英・赤色風化塵の縁・粗粒砂を含む。外画タキナ。内面ハケ。平底。	
+	74	ST1 上層	壺		(8.8)		褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR6/6	チャート・石英・赤色風化塵の縁・粗粒砂を含む。チャートタキナ・粗いハケ。内面ハケ+指ナデ。外画に黒斑あり。丸底。	
+	75	ST1 中層	壺		(7.5)		灰褐色 7.5YR6/2	に赤い褐色 7.5YR7/4	チャート・赤色風化塵の粗粒砂を含む。外画タキナ+ハケ。内面右下よりのハケ。内底部は指ナデ。外画に大きな黒斑あり。丸底。	
+	76	ST1 上層	壺		(4.7)	3.3	明赤褐色 5YR5/6	褐色 7.5YR6/6	チャート・石英の縁・粗粒砂を含む。内・外画ハケ。平底。	
+	77	ST1 上層	壺		(7.0)	3.0	に赤い褐色 7.5YR7/4	に赤い褐色 7.5YR7/4	チャート・赤色風化塵の粗粒砂を含む。小窪を含む。外画タキナ+ハケ。内面指ナデ。平底。	
+	78	ST1 中層	壺		(7.2)		灰褐色 2.5YR4/1	に赤い褐色 5YR6/4	チャート・石英の縁・粗粒砂を含む。外画タキナ+ハケ。内面指ナデ。丸底。	
+	79	ST1 上層	壺		(15.0)		に赤い黃褐色 10YR6/3	に赤い黃褐色 10YR5/3	チャートの粗粒砂を含む。外画タキナをナデ消す。内面指ナデ。指痕压痕著。丸底。	
+	80	ST1 上層	壺		(13.8)	4.4	黄灰色 2.5YR4/1	に赤い黃褐色 10YR7/4	チャート・石英・赤色風化塵の縁・粗粒砂を含む。外画タキナ+ハケ。内面指ナデ。外画黒斑あり。被覆する。平底。	
+	81	ST1 中層	壺		(4.8)		褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	チャートの縁・粗粒砂を含む。外画に指痕压痕あり。内面ハケ。丸底。	
+	82	ST1 中層	壺		(7.5)	2.5	褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	チャート・石英の縁・粗粒砂を少量含む。外画タキナ。内面ハケ、ナデ。平底。	
+	83	ST1 上層	甕		(5.6)		褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	チャートの粗粒砂を含む。内・外画ハケ。	
10	84	ST1 上層	鉢	7.2	4.1		に赤い黃褐色 10YR6/4	に赤い黃褐色 10YR6/4	チャートの縁・粗粒砂を含む。外画ミガキ。内面ミガキ、ハケ。丸底。	
+	85	ST1 上層	鉢	6.5	3.2	1.9	に赤い褐色 7.5YR7/4	に赤い褐色 7.5YR7/4	チャートの縁・粗粒砂を含む。外画タキナ。内面指痕压痕、ナデ。平底。	
+	86	ST1 中層	鉢	7.9	3.4	3.0	褐色 5YR6/8	褐色 7.5YR7/6	チャートの粗粒砂を含む。内・外画の器表の荒れが激しく、調整不明。平底。	
+	87	ST1 上層	鉢		(1.8)	1.8	褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	チャートの粗粒砂を含む。外画ハケ。平底。	
+	88	ST1 上層	鉢	7.8	3.7	2.3	明赤褐色 5YR5/4	明赤褐色 5YR5/6	チャート・石英の粗粒砂を含む。内・外画調整不明。底面外画に指痕压痕あり。	
+	89	ST1 上層	鉢		(2.4)	1.6	に赤い褐色 7.5YR6/4	に赤い褐色 7.5YR7/4	チャートの粗粒砂を含む。内・外画ハケ。外画に黒斑あり。	
+	90	ST1 上層	鉢	10.0	2.7		に赤い褐色 7.5YR7/4	に赤い褐色 7.5YR7/4	赤色風化塵の粗粒砂、小窪を含む。内・外画に指痕压痕著。	
+	91	ST1 中層	鉢	11.3	3.0		に赤い褐色 7.5YR5/3	に赤い褐色 7.5YR5/3	精選された胎土。内面丁寧なミガキ。外画調整不明。	

遺物観察表 5

Fig.番号 No.	種類 器種	出土 地點 ST1	器種 口徑 器高 側径 底径	法量 (cm)		色調		特 徴	備 考
				内面	外面				
10 92	鉢	ST1 上層	14.6 4.7		にぶい褐色 7.5YR5/3	明褐色 7.5YR5/6	チャートの細・粗粒砂を含む。内・外の器表の荒れが激しい。内面に指頭圧痕あり。丸底。		
* 93	鉢	ST1 上層	13.0 4.9		にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい黄褐色 10YR6/4	チャートの小穂を少量含む。内・外に指頭圧痕あり。丸底。		
* 94	鉢	ST1 P7	10.9 6.9	2.3	にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	チャートの細・粗粒砂を含む。外曲タタキ+ハケ。内面ハケ。外面上黒斑あり。平底。		
* 95	鉢	ST1 中層	10.6 3.6	3.6	にぶい褐色 7.5YR6/4	灰褐色 7.5YR5/2	チャート・石英の細・粗粒砂を少量含む。内面ハケ。平底。		
* 96	鉢	ST1 上層	11.3 4.4	2.7	褐色 7.5YR6/6	明褐色 7.5YR5/6	チャートの粗粒砂、小穂を少量含む。外曲タタキ。内面右下がりのハケ。平底。		
* 97	鉢	ST1 上層	13.8 4.8	7.1	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	チャートの小穂・粗粒砂を含む。外面上黒斑あり。内面ハケ。平底。		
* 98	鉢	ST1 上層	13.2 (5.3)		褐灰色 7.5YR5/2	灰褐色 7.5YR5/2	チャートの粗粒砂。雲母の粗粒砂を少量含む。口縁部内面ハケ。内底部粗ナデ。		
* 99	鉢	ST1 下層	10.8 3.4	4.4	オリーブ黒色 5Y3/1	明黃褐色 10YR6/6	チャートの粗粒砂を少量含む。内・外曲ハケ。外面上黒斑あり。		
* 100	鉢	ST1 上層	10.3 4.5	2.5	にぶい褐色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	チャート・赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。外曲タタキ。内面調整不明。平底。		
* 101	鉢	ST1 下層	14.8 6.2	6.0	にぶい赤褐色 2.5YR4/3	にぶい赤褐色 2.5YR4/3	チャートの小穂・粗粒砂を含む。口縁部外曲ナデ。体部外曲ヘラ拭工具による調整痕あり。内面ハケ。口部背面取る。平底。		
* 102	鉢	ST1 中層	9.8 3.3	2.9	褐色 2.5YR6/6	褐色 2.5YR6/6	チャートの細・粗粒砂を含む。外面上黒斑あり。内面ハケ+丁寧な指ナデ。平底。		
* 103	鉢	ST1 中層	10.5 (6.8)		にぶい褐色 7.5YR3/7	にぶい褐色 7.5YR3/7	チャートの粗粒砂を含む。器表の荒れが激しいため、外面上黒斑あり。内面はくわにハケ、ミガキを認む。		
* 104	鉢	ST1 上層	10.4 5.4		褐色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	チャート・赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。外曲ハケ。丸底。		
* 105	鉢	ST1 中層	22.8 (6.0)		褐色 5YR6/6	褐色 5YR6/6	チャート・赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。口縁部外曲ナデ。内面ハケ+ナデ。		
* 106	鉢	ST1 中層	11.1 5.8		褐色 7.5YR6/6	褐色 7.5YR6/6	チャートの粗粒砂を少量含む。外曲ハケ。内面ハケ+指ナデ。丸底。		
* 107	鉢	ST1 床	13.3 6.5	4.0	褐灰色 7.5YR6/1	明褐色 7.5YR7/2	チャートの粗粒砂を少量含む。外曲指ナデ。内面ミガキ。平底。		
* 108	鉢	ST1 上層	11.2 6.6	2.6	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	チャート・赤色風化礫の小穂・粗粒砂を含む。外曲指頭圧痕あり。内面ハケ。外面上黒斑あり。丸底。		
* 109	鉢	ST1 下層	12.4 7.3		褐色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	チャートの細・粗粒砂を含む。外曲ハケ。内面ミガキ。外面上黒斑あり。丸底。		
* 110	鉢	ST1 中層	12.2 6.2	3.0	褐色 2.5YR6/6	褐色 2.5YR6/6	チャートの粗粒砂を含む。外曲タタキ+ナデ。内面ハケ。平底。		
* 111	鉢	ST1 中層	12.8 7.8	3.0	褐色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	チャートの粗粒砂を含む。外曲調整不明。内面ハケ。平底。		
* 112	鉢	ST1 上層	12.0 6.5	3.0	にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 7.5YR6/6	チャートの粗粒砂を含む。外曲タタキ+ナデ。内面ハケ。平底。		
* 113	鉢	ST1 中層	13.8 7.2	3.5	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	チャート・赤色風化礫の粗粒砂を含む。外曲ハケ。指頭圧痕あり。内面ハケ。内・外面上黒斑あり。平底。		
* 114	鉢	ST1 上層	11.9 4.5	4.9	にぶい褐色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR7/4	チャート・石英の小穂・粗粒砂を含む。内・外に指頭圧痕あり。内面ハケ。外面上黒斑あり。平底。		

遺物観察表 6

Fig. No.	地図 番号	出土 場所	器種	法量(cm)			色調		特 徴	備 考	
				口径	器高	側径	底径	内面	外面		
10	115	ST1 上層	鉢		(3.3)		2.2	褐色 SYR6/6	褐色 SYR6/6	チャートの粗粒砂を含む。内・外表面ハケ。平底。	
+	115	ST1 中層	鉢	14.8	7.1			褐色 7SYR6/6	褐色 7SYR6/6	チャートの粗粒砂を含む。口縁部内・外表面横ナデ。内底部ハケ。外底部に指痕あり。丸底。	
+	117	ST1 P6底	鉢	15.6	7.6		4.9	褐色 7SYR5/1	にぶい褐色 7SYR6/4	チャート・石英の小礫を含む。外表面タキナナデ。口縁部内面はハケ。内底部は強いナデ。内面に指痕压痕あり。口縁全周の2/3面取る。外面上大きな黒斑あり。平底。	
+	118	ST1 下層	鉢	16.0	7.7			にぶい褐色 7SYR7/4	にぶい褐色 7SYR7/4	チャートの粗粒砂を含む。外表面タキナナデ、ハケ。内面ハケ。口唇部は面取りする。丸底。	
+	119	ST1 下層	鉢	12.2	7.6		3.9	浅黄褐色 7SYR8/4	浅黄褐色 7SYR8/4	チャート・赤色風化礫の小礫、粗粒砂を含む。外表面整不明。内面に7条のハラ描き模様を施す。平底。	
+	120	ST1 F層	鉢	16.5	7.5		5.0	にぶい褐色 SYR7/4	にぶい褐色 SYR7/4	チャートの粗粒砂を含む。外表面タキナナデ。内面ハケ。口唇部強いナデ。わずかに平底。	
+	121	ST1 上層	鉢	14.9	7.7		4.3	にぶい黄褐色 10YR7/3	にぶい黄褐色 10YR7/3	チャート・赤色風化礫の小礫、粗粒砂を含む。外表面横顎圧痕あり。内面ハケ。平底。	
+	122	ST1 下層	鉢	16.2	8.9		4.6	にぶい褐色 5YR6/4	褐色 25YR6/6	チャートの粗粒砂を含む。外表面タキナナデが激しく、指痕压痕をわざかに認める。内面ハケ。平底。	
+	123	ST1 P6	鉢	22.1	9.5		4.0	にぶい褐色 7SYR7/4	にぶい褐色 7SYR7/4	チャート・石英の小礫、粗粒砂を含む。外表面タキナナデ、黒斑あり。平底。	
+	124	ST1 上層	鉢	18.0	7.3			にぶい褐色 7SYR7/4	にぶい褐色 7SYR7/4	チャート・赤色風化礫の粗粒砂を含む。外表面タキナナデ。内面ハケ。口縁部わざかに外反する。丸底。	
+	125	ST1 中層	鉢	26.4	(10.0)			褐色 7.5YR7/6	褐色 7.5YR7/6	チャート・石英の粗粒砂を含む。内・外表面ハケ。内・外面上大きな黒斑あり。	
+	126	ST1 上層	鉢	21.2	(8.2)			にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	チャートの粗粒砂を含む。外表面ハケ+丁寧なミガキ。内面ミガキ。	
11	127	ST1 中層	高坏	15.6	(4.1)			にぶい褐色 7.5YR6/4	褐色 SYR6/6	チャート・石英の粗粒砂、小礫を含む。环部内・外表面ハケ。口縁部内・外面ナデ。环部は棱をもちら外反する。	
+	128	ST1 上層	高坏		(4.8)			明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	チャート・石英・赤色風化礫の粗粒砂、小礫を含む。内・外表面の調整不明。环部は棱をもち大きく外反する。	
+	129	ST1 上層	高坏	15.3	(11.9)			褐色 7SYR6/6	褐色 7SYR7/6	チャートの粗粒砂をわざかに含む。环部は棱をもち外反する。脚部に4孔を穿つ。环部内底部に指痕压痕あり。	
+	130	ST1 中層	高坏	17.6	13.2		15.1	褐色 2.5YR6/8	褐色 2.5YR6/8	チャート・石英の小礫を含む。环部内底部は屈曲して丸く外反する。脚部部に4孔を穿つ。脚部内側に凹入する。脚部部は下方に屈曲する。	
+	131	ST1 上層	高坏	21.2	13.6		12.8	明赤褐色 2.5YR5/8	明赤褐色 2.5YR5/8	チャートの粗粒砂をわざかに含む。内・外表面の器表の荒れが激しいが、脚部部にはわざかにハケを認める。杯部は棱をもち繊々かに外反して立ち上がる。脚部に4孔を穿つ。	
+	132	ST1 上層	高坏		(11.7)		14.4	褐色 SYR6/8	褐色 2.5YR6/8	チャートの褐色、粗粒砂を少量含む。内・外表面の器表の荒れが激しく、調整不明。杯部は棱をもち外反する。	
+	133	ST1 上層	高坏	15.0	(8.4)			灰白色 7SYR8/2	明褐灰色 7.5YR7/1	チャートの粗粒砂を多く含む。内面ハケ+ナデ。外表面整不明。	
+	134	ST1 上層	高坏	14.9	8.9		12.1	明褐灰色 7SYR7/2	明褐灰色 7SYR7/2	チャート・石英の褐色、粗粒砂を含む。外表面タキナナデ消す。脚部内面ハケ、指痕。	
+	135	ST1 上層	高坏	11.6	11.1		17.0	明赤褐色 SYR5/6	明赤褐色 SYR5/6	チャートの細・粗粒砂を少々含む。环部内・外表面丁寧なミガキ。脚部外表面ハケ+ミガキ。脚部内側に屈曲状に粗いハケ。脚部は5個の孔を穿つ。	
+	136	ST1 中層	高坏	20.6	(4.2)			にぶい褐色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/4	チャートの粗粒砂を少々含む。内・外表面ハケ+丁寧なミガキ。	
+	137	ST1 上層	高坏		(4.8)		20.8	にぶい褐色 7SYR7/4	にぶい褐色 7SYR7/4	チャートの細・粗粒砂を少々含む。外表面ハケ+ミガキ。内面ハケ。脚部に4孔を穿つ。	

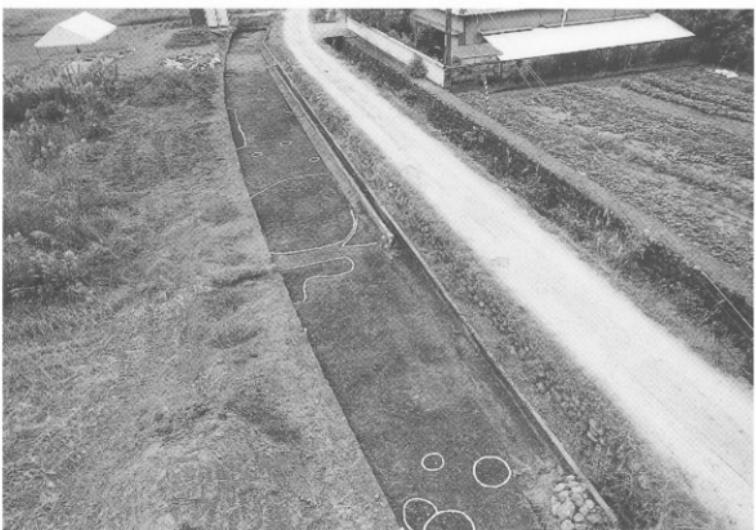
遺物観察表7

Fig.番号 No.	出土 地点	器種	法量(cm)			色調		特 徴	備 考
			口径	器高	脚径	内面	外面		
11 138	ST1 中層	高環	(5.5)		13.4	に赤い褐色 7.5YR6/4	に赤い褐色 7.5YR6/4	チャートの粗粒砂を含む。内・外面部ハケ+ナゲ。	
◦ 139	ST1 下層	高環	(3.0)		23.6	に赤い褐色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR6/6	チャートの粗粒砂をわずかに含む。外面部丁寧なミガキ。内面部ハケ。	
◦ 140	ST1 上層	高環	(2.2)		14.4	に赤い褐色 7.5YR6/3	に赤い褐色 7.5YR7/4	チャートの粗粒砂を含む。外面部丁寧なミガキ。脚部は段をもって立ち上がり、穿孔する。	
◦ 141	ST1 中層	高環			10.4	に赤い褐色 7.5YR6/4	に赤い褐色 7.5YR6/4	精選された胎土。内・外面部ハケ。	
◦ 142	ST1 中層	高環	(5.7)		13.1	明褐色 7.5YR5/6	明褐色 7.5YR5/6	チャートの細・粗粒砂を含む。外面部ハケ。内面部整不整。	
◦ 143	ST1 中層	高環	(4.4)		9.2	に赤い褐色 7.5YR5/3	に赤い褐色 7.5YR5/3	チャートの細・粗粒砂を含む。外面部ハケ。内面部ハケ、指頭圧痕あり。	
◦ 144	ST1 下層	高環	(4.5)			に赤い褐色 7.5YR6/4	に赤い褐色 7.5YR6/4	チャートの細・粗粒砂を含む。外面部タキキ+ミガキ。脚部に4孔を穿つ。	
◦ 145	ST1 上層	高環	(6.4)			橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	チャートの細・粗粒砂を少量含む。外面部は丁寧なミガキ、ハケ。	
◦ 146	ST1 上層	高環	(7.0)				浅黃褐色 7.5YR8/4	精選された胎土。外面部に丁寧なミガキ。	
◦ 147	ST1 上層	高環	(7.0)			橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	チャートの粗粒砂を少量含む。外面部丁寧なミガキ。	
◦ 148	ST1 中層	瓶	17.2	18.0	4.5	に赤い褐色 7.5YR6/4	に赤い褐色 7.5YR6/4	チャート・石英・赤色風化層の粗粒砂を含む。外面部タキキ。内面部ハケ。内・外面部に黒斑あり。底部に径1.6cmの孔を2つ。	
◦ 149	ST1 中層	瓶	(5.7)		1.5	に赤い褐色 7.5YR6/3	に赤い褐色 7.5YR6/4	チャートの粗粒砂を含む。外面部タキキ。内面部指頭圧痕あり。底部に径0.8cmの1孔を穿つ。内・外面部に黒斑あり。	
◦ 150	ST1 下層	器台	(2.2)		4.8	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	チャートの粗粒砂を含む。外面部指頭圧痕あり。	
◦ 151	ST1 上層	器台	5.3	5.2	7.7	に赤い黄褐色 10YR6/3	に赤い黄褐色 10YR6/3	チャートの粗粒砂を含む。指頭圧痕者。	
◦ 152	ST1 中層	刀子	全長 7.1	全幅 1.2	重 量 7g				
◦ 153	ST1 下層	叩石	全長 12.4	全幅 10.3	全厚 5.5	重量 995g		片面中央に敲打痕。鉄岩製。	

写 真 図 版



A区 調査前状況（南より）



A区 遺構検出状況（北より）



A区 完掘状況（北より）



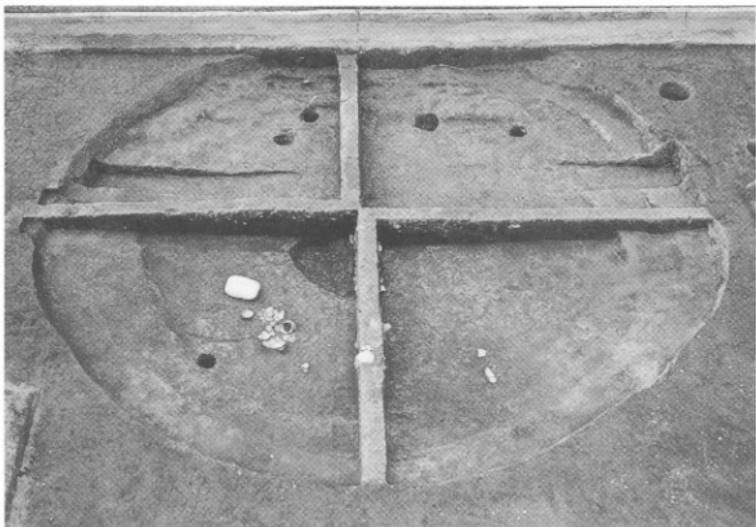
ST1 上層土器出土状況（東より）



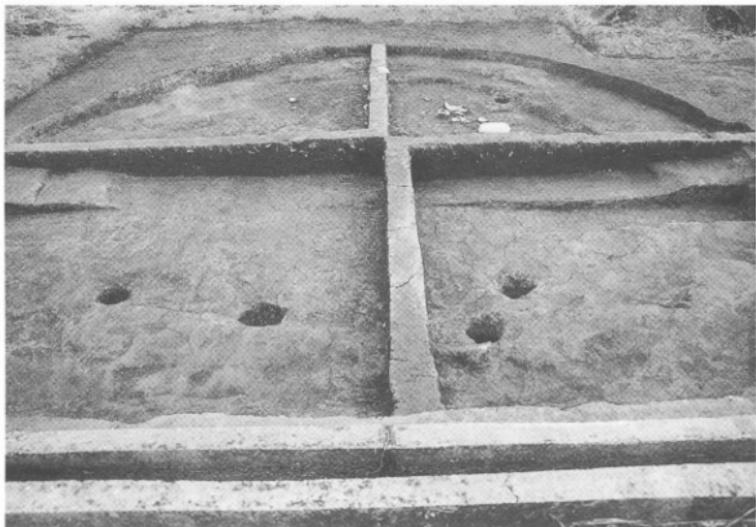
ST1 上層土器出土状況（南より）



ST1 上層土器出土状況（北より）



ST1 セクション（東より）



ST1 セクション（西より）



ST1 セクション



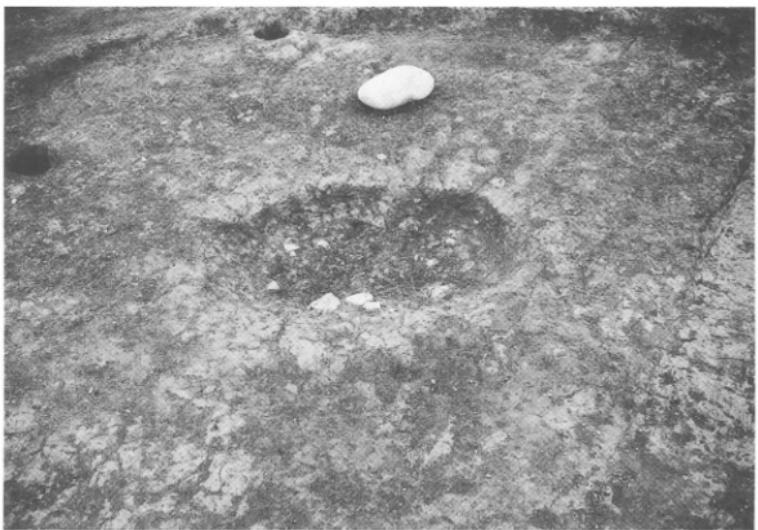
ST1 セクション



ST1 床面土器出土状況（東より）



ST1 完掘状況（東より）



ST1 中央ピット (P6)



B区 調査前状況 (南より)



B区 道構検出状況（北より）



B区 完掘状況（北より）



C区 調査前状況（南より）



C区 完掘状況（北より）



D区 調査前状況（南より）



D区 完掘状況（南より）



15



17



18



19



20



31

ST1 出土遺物 (1)



33



38



39



40



41



43

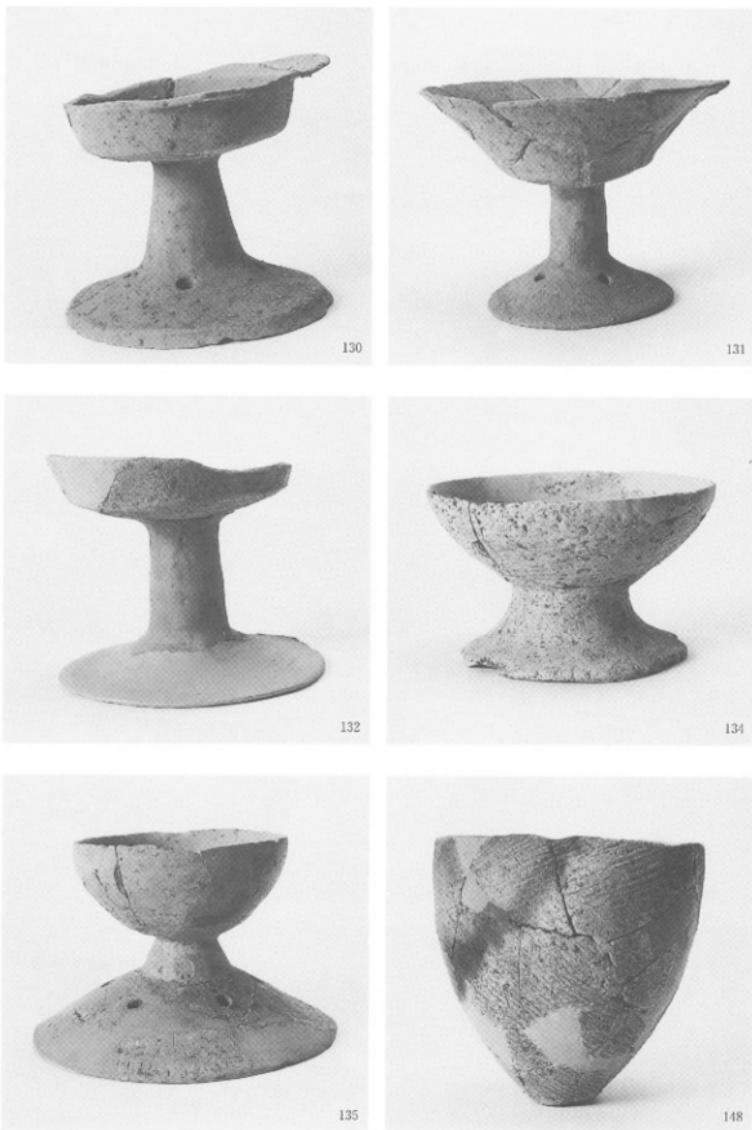
ST1 出土遺物（2）



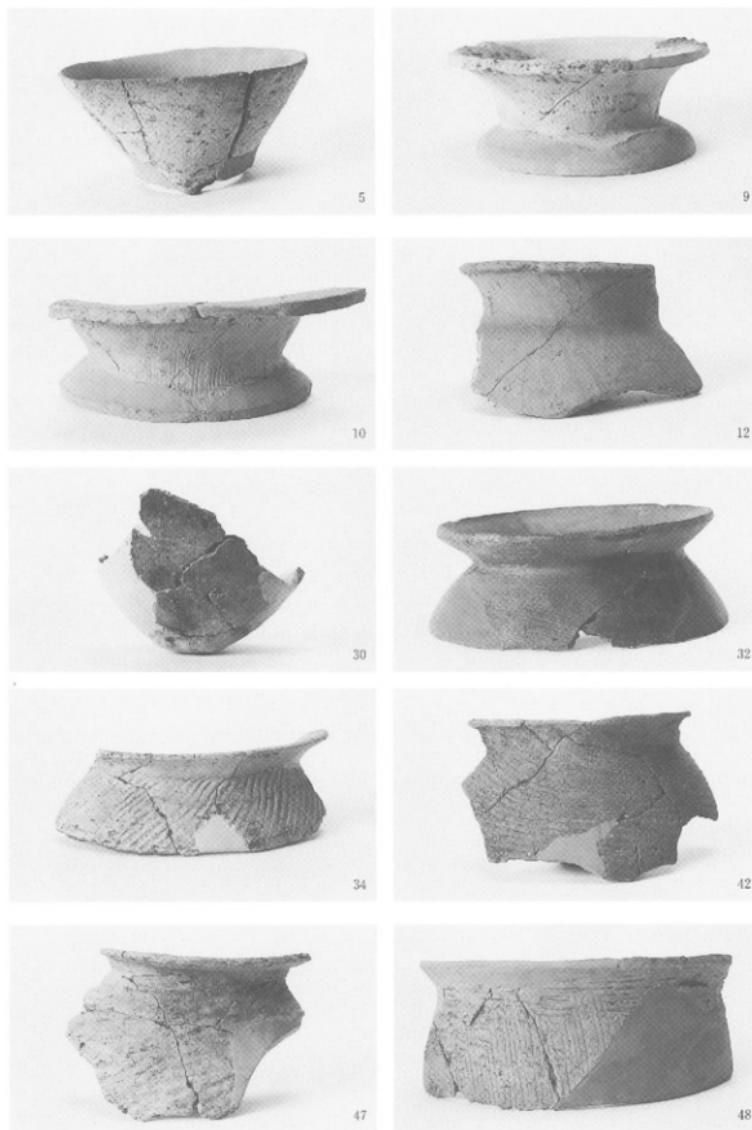
ST1 出土遺物（3）



ST1 出上遺物 (4)



ST1 出土遺物 (5)



ST1 出土遺物 (6)